

人別帳云々
右原告人氏名申上候云々
年月日

前書申上候處相違無御座候

年月日

某
裁判所

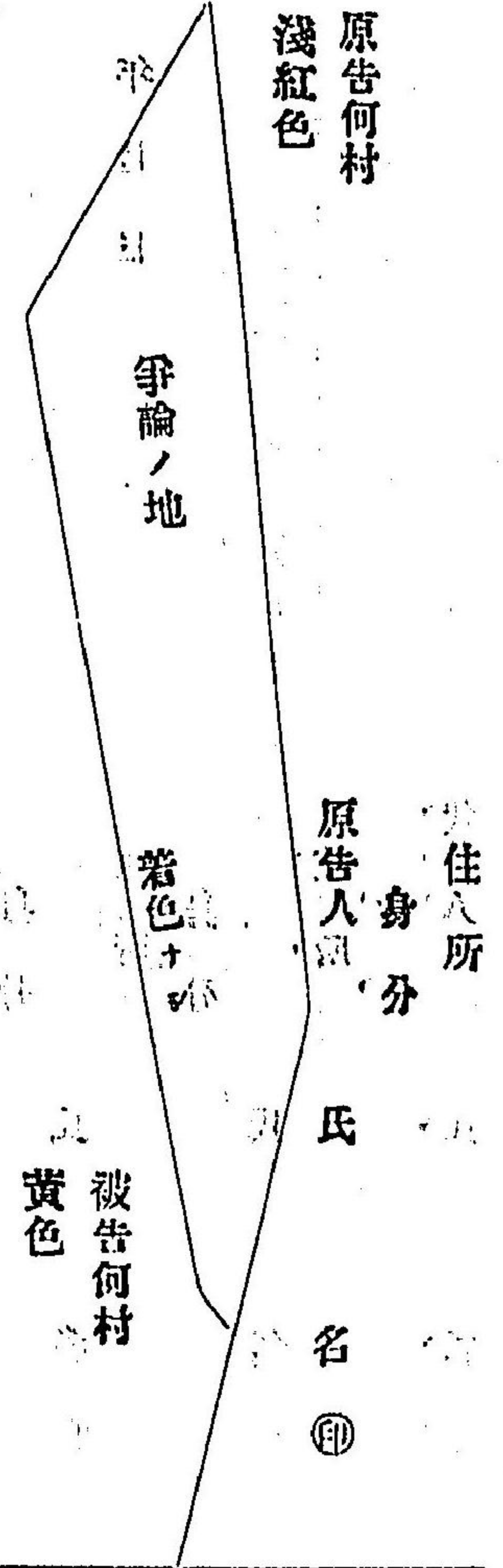
住所
氏名
代書人
氏名
住所
氏名

原告人ノ祖父
氏名
母父母等
氏名

第七號 境界ヲ争フ給圖ノ式

年月日ノ原圖何枚ノ一
年月日寫之

第八號 原告人三人以上ナル者一人ニ任スル訴狀



住所
原告人
氏名
住所
被告分
氏名
住所
原告人
氏名
住所
被告分
氏名

原告人氏名記云々
(訴訟門) (解答文例)

右原告人氏名申上候云々

年月日

前書ノ儀原告私共連名ニテ御願可申上管ニ御座候處病氣云々ニテ離罷出ニ付何
ノ誰ヘ總代相頼候然ル上ハ何ノ誰ヨリ申上候事柄並ニ御受仕候事柄共後日ニ至
リ私共ヨリ異儀申上聞敷候爲後證與印仕候

住、所、氏、名、
代、書、人、氏、名、
身、分、
印

住、所、

身、分、

氏、名、
印

住、所、

身、分、

氏、名、
印

住、所、

身、分、

代、書、人、氏、名、
印

年月日

某、
御、裁、判、所

第九號 被告人連名中脱走又ハ病死人アルノ訴狀

住、所、

身、分、

原、告、人、氏、名、

住、所、

身、分、

被、告、人、氏、名、

元、住、所、

身、分、

被、告、人、氏、名、

住、所、

身、分、

被、告、人、氏、名、

右何ノ誰ハ年月日脱走致候段何(町)
(村)役人何ノ誰ヨリ承知仕候

(訴訟門) (訴訟文例)

右何ノ誰ハ年月日死亡致候段何(町)
(村)役人何ノ誰ヨリ承知仕候

右原告人氏名申上候云々

年月日

住所

氏名 印

身分

氏名 印

代書人

某

御裁判所

第十號 讓證文書以テ催促スル訴狀

(九年第九十九號布告ニ依テ消滅ス)

第十一號 代言人ヲ頼ム訴狀

(九年第十八號布告ヲ以テ消除セラル)

第十二號 一時假リノ代言人ヲ出ス証書

第十三號 答書表紙ノ式 (用紙寸法第一號訴狀ノ法ノ如シ)

年月日

某ノ答書

住所

氏名

答書ノ式

住所

身分

被告人 氏名

某ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕御答申上候
私儀云々

證據ノ書類アラハ其寫ヲ記載スヘシ

右之通御座候

(訴訟門) (証書文例)

年月日
住、所
身、分
氏、名
御、裁、判、所
某、

第十四號 對決前熟議解訴ノ答書

某ノ訴濟口ノ答
被告、人
住、所
身、分
氏、名
右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今日御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談
濟方仕候趣申上候
私儀云々
年、月、日
住、所
身、分
氏、名
代、書、人
身、分
氏、名

前書被告何ノ誰ヨリ申上候通熟談濟方仕候ニ付此上對決ノ御裁斷不奉願候

年、月、日
住、所
身、分
氏、名
原告、人
住、所
身、分
氏、名
代、書、人
身、分
氏、名
御、裁、判、所
某、

第十五號 對決前返濟延期ノ約定ヲ爲メ答書

某ノ訴濟口日延ノ答
住、所
身、分
氏、名
右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今日御呼出ノ御狀拜見仕原告人へ熟談
ノ上濟方日延約定仕候左ノ通御座候

(訴訟門) (解答文例)

私儀云々

年月日

住所

氏名 印

身分

氏名 印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上辨方日延約定仕候ニ付來何年月ヲ御裁斷御猶豫奉願候

住所

身分

氏名 印

住所

身分

氏名 印

某御裁判所

對決前他人代償ノ延期ヲ約シタル解認ノ答書

住所

身分

氏名

某ノ訴何ノ誰ヨリ日延代償ニテ濟口ノ答
右住所自分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ニ熟談ノ上(親族)(朋友)中何ノ誰ヨリ日延代償約定仕候段左ノ通御座候
私儀云々

年月日

住所

氏名 印

身分

氏名 印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ日延代償ノ約定仕候段相違無御座候

年月日

住所

氏名 印

身分

氏名 印

身分

氏名 印

(訴訟阿)

(訴訟文例)

前書被告人何ノ誰申上候通私共承諾仕候ニ付此上對決前ノ御裁斷不奉願候

年月日

住所

身分

原告人

氏

名

印

住所

身分

代書人

氏

名

印

某、御裁判所

第十七號 對決前他人代償ノ延期ヲ爲シタル答書

住所

身分

被告人

氏

名

印

某ノ訴何ノ誰代償濟口日延ノ答

右住所身分何ノ誰何々ノ儀訴出候ニ付今何日御呼出ノ御狀拜見仕原告人ノ親族

ノ上(親族)(朋友)中何ノ誰ヨリ代償濟方日延ノ約定仕候段左ノ通御座候

私儀云々

年月日

住所

身分

代書人

氏

名

印

前書被告人何ノ誰申上候通私共ヨリ代償方日延ノ約定仕候段相違無御座候

住所

身分

代償人

氏

名

印

住所

身分

代書人

氏

名

印

前書被告人何ノ誰申上候通熟談ノ上何ノ誰ヨリ代償濟方日延約定仕候ニ付來何

年月日何日ヲテ御裁斷御猶豫奉願候

年月日

住所

身分

原告人

氏

名

印

(訴訟門)

(答文例)

年月日

住所

身分

代書人

氏名

名

印

御裁判所

第十八號 外國原告人訴訟ノ式

本國住所

身分

原告人

氏名

名

訴訟

住所

被告人

氏名

名

右原告人氏名ヨリ右被告人氏名ニ對シ當御裁判所ニ左ノ通訴訟申上候

第一云々

第二云々

第三云々

但シ訴訟ノ根源事實ノ大畧ヲ明白ニ認メ可シ若シ其實混交シ長文ナリ時ハ第一第二第三條ト之ヲ區別スヘシ

依之原告ヨリ御裁判所ニ云々被成下度願上候事

但シ何等ノ處置ハ原告人ノ所願ニ候ヤ金

子ノ拂カ其金高何程カ右判然ト認メ其他

公正ノ御裁判ヲ願フノ趣ヲ認ム可シ

日本地名

年月日

原告人

氏名

花印

若シ原告人ノ代言者アル時ハ左ノ

如ク加判スヘシ

代言者

氏名

花印

某

御裁判所

司法省ヨリ太政官ニ伺

訴訟文例ハ訴訟者ノ爲メ原告ノ書式ヲ定メタルモノナレハ該文例中第十四條第二十八條

第二十九條(改正案)ニ依リ調査上申ノ日度ニ之アリ候ニテ除ク外ハ事理ノ年月日及ビ附

添ノ證據ヲ寫載スヘシト指示セルノミニテ他ニ何等貴重ノ證據アリト雖モ文例中云々

ル所ノ證據ナクシテ受理裁判ニサレト明言シタル者ニ非ルヤ必セリ蓋シ證據ノ以テ其明

確シ徵スヘシト雖モ本人手署若クハ自筆ノ書類ヲ存スルアラシメハ之ヲ證據ノ

(訴訟門)

(訴訟文例)

四十七條中ニ云々スル者(証書ノ端緒トハ訟求ヲ受ケタル者又ハ其代理スル本人ヨリ出テ
 ノチ)アルハ雖シ是ヲ以テナリ然ルニ該文例中明文ノ之ヲ指點スルナキヲ以テ官私往々疑
 惑ヲ生シ隨テ裁判所非常ノ弊害ヲ醸シ甚シキハ他ニ何等ノ證據アルモ証書ヲシテ微リゼ
 ハ之ヲ受理裁判セサルニ至レリ之大ニ人民ノ權利ヲ害スルモノニシテ政府保護ノ點ニ於
 テ多少ノ根據ナキ能ハサルナリ依テ別紙ノ通大審院諸裁判所へ相違證據無之檢致度候間
 一應上申候至急御命相成度候也
 右載下ノ上丁第二十七號ヲ以テ達ス

(司)丁第廿七號達(明治十年三月)

訴答文例ハ特リ訴答ノ書式ヲ指示シタルモノナレハ第十四條第二十八條第二十九條ヲ除ク
 ノ外文例中云々スル所ノ証書ナシト雖モ證據ノ端緒之レアルニ於テハ憑據アル訴答ト見認
 ムヘキハ勿論ノ事

○利息制限

六十六號布告(明治十年九月)

利息制限法左ノ通相定候條此旨布告候事

- 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
- 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓以下
 ハ一箇年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百分ノ十五(一割五分)千圓以上百分ノ
 十二(一割二分)以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニ違引

直サムヘシテ...

- 第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサル時裁判所ヨリ言渡ス
 所ノモノニシテ元金ノ多少ニ拘ハラヌ百分ノ六(五分)トス人...
- 第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者
 アルトモ總テ裁判上無効ノモノトス...
- 第五條 返還期限ヲ違フ時ハ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違約金料料等ヲ差出ス可キコ
 ナ約定スルコトアルモ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害
 ノ補償ニ不當ナリト思量スル時ハ之レニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○登記法

○第一章 總則

- 第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ヲ請ムトスル者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ
 其所在地船舶ハ定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請ムコトス
- 第二條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ノ登記ハ始審裁判所長之ヲ監督スヘシ
- 第三條 登記事務ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス治安裁判所遠隔ノ地方ニ於テハ
 郡區役所其他司法大臣指定スル所ニ於テ之ヲ取扱ハシム
- 第四條 登記所ノ位置及其管轄ノ區域ハ司法大臣之ヲ定ム

(訴訟門) (利息制限) (登記法)

- 第五條 登記官吏ハ登記事務取扱ニ付テハ始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第六條 登記簿ニ登記ヲ爲セ、ル地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス
- 第七條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ニ付テ登記ス可キ概目左ノ如シ
 - 第一 地所ハ郡區町村名、字、番地、地目、反別若クハ坪數地券面ノ價格
 - 第二 建物ハ郡區町村名、字、番地、地目、構造ノ種類、建坪、造作ノ有無
 - 第三 西洋形船舶ハ汽船、風帆船ノ區別、船名、番號、登簿噸數、公稱馬力、汽機及汽爐ノ種類、端船其他必要ノ所屬品
 - 第四 日本形船舶ハ船名、番號、積石數、間數、端船其他必要ノ所屬品
 - 第五 登記ノ事由
 - 第六 金額
 - 第七 質入書入ハ其期限及利息
 - 第八 所有者及登記ヲ受クルモノ、氏名住所
 - 第九 一筆ノ地所又ハ一棟ノ建物ハ區別シ賣買讓與質入書入ヲ爲ストキハ其事實
 - 第十 二番以後ノ書入ヲ爲シ又ハ書入ニ爲シタルモノヲ質入ト爲シ質入ニ爲シタルモノハ書入ト爲ストキハ其事實
 - 第十一 登記ノ年月日

- 第八條 登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏直ニ前條ノ概目ヲ審査シテ登記簿ニ登記シ本人ニ之ヲ示シ又ハ讀聞セタル上本人ヲシテ署名捺印セシメ且之ニ署名捺印ス可シ
- 第九條 地所建物船舶ニ關スル差押假差留處分及地所建物ノ収益差押ニ付テハ裁判所ノ命令書ニ依リ登記簿ニ其記入ヲ爲ス可シ
- 前項ノ記入ハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス
- 第十條 登記簿第十五條第二項及第十六條第十七條第十八條ヲ除クノ外契約者雙方ハ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス
- 第十一條 登記ノ原本又ハ抜書又ハ一覽ヲ要スル者其登記所ニ出頭シテ之ヲ請求スルコトヲ得
- 第十二條 登記官地ノ職務執行上三關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得
- 第十三條 登記ニ關スル取扱ノ手續及登記簿ノ書式ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第十四條 第二章 賣買讓與
 - 第二章 賣買讓與
 - 第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示シ可シ
 - 前項ハ場合ニ於テ其物件質入書入中ニ係ルトキハ買受人讓受人ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ
 - 第十五條 家督相續ニ因リ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

(登記法)

死亡者失踪者若クハ離縁戸主ノ遺留ナル地所建物船舶ヲ相續スル者登記ヲ請フトキハ親屬又親屬ナキトキハ近隣ノ戸主二名以上連署ノ書面ヲ差出シ且證明書類アルモノハ之ヲ示スベシ

第十六條 行政官廳ノ公賣處分ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者登記ヲ請フトキハ落札違書及其代金完納證書ヲ示ス可シ

第十七條 官有ノ地所建物船舶ノ拂下又ハ無代價下渡ヲ受ケ登記ヲ請フトキハ其指令ノ本書若クハ違書ヲ示ス可シ

第十八條 民有ノ地所建物船舶ヲ官有ト爲シタルトキハ其官廳ハ第七條ノ概目ヲ示シテ登記ヲ求ム可シ

第十九條 裁判執行上ノ釋賣若クハ入札ニ因テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者アルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ其登記ヲ爲ス可シ

第二十條 地所船舶賣買讓與ノ登記ヲ受ケ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請ントスル者ハ登記所ヨリ登記済ノ證ヲ受ク可シ

第二十一條 第三章ノ賃入書入
○第三章 賃入書入
地所建物船舶ノ賃入書入ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示ス可シ

賃借ノ爲メニ非ズシテ義務ヲ果ス可キ保證ノ爲メ地所建物船舶ヲ賃入書入ト爲シ其登記

ヲ請フ者モ亦前項ノ規定ニ依ル可シ

第二十二條 書入ノ地所建物船舶ヲ重テ書入ト爲ストキハ第二債主ニ於テ之ヲ了知セル旨ヲ申出其記入ヲ請フ可シ書入ト爲リタル地所ヲ賃入ト爲シ又ハ賃入ト爲リタル地所ヲ

書入ト爲ストキ亦同シ

第二十三條 賃入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シ其證書ヲ示スベシ

第二十四條 同一ノ地所建物船舶ニ付キ數個ノ登記ヲ爲ストキハ其登記ヲ請フ日時ノ前後

ニ因テ登記ノ順序ヲ定ムルモノトス

第四章 登記料及手数料
第二十五條 地所建物船舶賣買ノ登記ニ付テハ其買受人左ノ買買代價ノ區別ニ從ヒ每一件

- 其登記料ヲ納ムルハ
- 登記料
- 五錢
- 五圓未滿
- 拾錢
- 五圓以上拾圓未滿
- 貳拾五錢
- 拾圓以上貳拾五圓未滿
- 五拾錢
- 貳拾五圓以上五拾圓未滿
- 壹圓
- 五拾圓以上百圓未滿

(賣買門) (登記料及手数料)

百圓以上貳百圓未滿 貳圓
 貳百圓以上三百圓未滿 三圓
 三百圓以上四百圓未滿 四圓
 四百圓以上五百圓未滿 五圓
 五百圓以上七百五十圓未滿 六圓
 七百五十圓以上千圓未滿 七圓
 千圓以上千五百圓未滿 八圓
 千五百圓以上貳千圓未滿 九圓
 貳千圓以上五千圓未滿 拾圓
 五千圓以上壹萬圓未滿 拾貳圓
 以上五千圓迄每貳千圓增加拾圓
 第二十六條 前條所建物船舶讓與ノ登記ニ付テハ其讓渡人讓受人ニ於テ時價相當ノ價格ヲ定メ前條所掲タル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其讓受人ヨリ登記料ヲ納ム可シ
 第二十七條 地所建物船舶質入書入ノ登記ニ付テハ其質入人書入人ハ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ半額納ム可シ
 第二十八條 第二十一條第三項ノ登記ニ付テハ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム

第九條 第一項ノ記入ニ付テハ其價格ノ定マリタル物件ハ其價格又其價格ノ定マラサル物件ノ時價相當ノ價格ヲ定メ前條ノ例ニ依リ其登記料ヲ納ム可シ
 第二十九條 第十五條ノ登記ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分額納ム可シ
 第三十條 左ニ掲クル者ハ手数料トシテ金五錢ヲ納ムヘシ
 第三十一條 登記事件ヲ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ者ハ每一枚
 第三十二條 登記ノ原本若シハ拔書ヲ請フ者ハ每一枚
 第三十三條 左ニ掲クル者ハ其手續料ノ額ニ依リ其手数料ヲ定ム可シ
 第三十四條 官廳ノ請求ニ係ル登記事件ハ其手数料ノ額ニ依リ其手数料ヲ定ム可シ
 第三十五條 公立ノ學校病院公園及養育院ニ係ル登記
 第三十六條 社寺堂宇及墳墓地ニ係ル登記
 第三十七條 人民共有ノ用懸水路池池敷堤敷井溝敷及公衆ノ間ニ供スル道路ニ係ル登記
 第三十八條 登記所ニ於テ第三十五條第二十六條第二十八條第三十條ニ從ヒ届出タル價格ニ相當ト認ムルトキハ其事件ニ關係ナキ者三名ヲ撰ビ之ヲ評價人ト爲シテ

(訴訟門)

(登記料及手数料)

其價格ヲ評定セシムヘシ

第三十三條 評價人ノ評價シタル價格屆出ノ價格ヨリ増加スルトキハ其評價ニ關スル費用
其登記料ヲ納ムル者之ヲ負擔スヘシ若シ其價格屆出ノ價格ト同價又ハ低下ナルモ該
費用ハ其登記用所ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第三十四條 立評定人ニ撰定シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辨スルコトヲ得ス

第三十五條 評定人ノ日當ハ登記所ノ見込ヲ以テ一日金貳拾錢ヨリ五拾錢迄ヲ給スヘシ

第三十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ登記料ヲ減脱シ及ヒ之ヲ通謀シタル者ハ貳圓以上百圓以下
ノ罰金ニ處ス

再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒズ

第三十八條 明治十年第二十八號布告船舶買賣書入質手續同十三年第五十二號布告土地賣
買讓渡規則同十四年第三十號布告地券証印稅則其他從前ノ法律規則中本法ニ抵觸スルモ
之ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十九條 地所賣買讓與荒地起返開墾銀下年期明等總テ地券下付書換ニ係ル手續及其手
數料大藏大臣之ヲ定ム

第四十條 登記所ノ登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ登記ヲ請フ者ハ地所建物

ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ戶長ノ證書ヲ以テ其所有者タルコト及其物件ニ故障キキコ
トヲ示スヘシ
第四十一條 本法ハ明治二十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○登記法手續(明治十九年十二月
司法省令第五號)

本年(八月)法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付キ明治二十年第二月以後登記ヲ請フ者ハ左ノ
手續ニ依ルベシ

第一條 登記ヲ請フ者ハ第一號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ
登記所ニ差出スヘシ

第二條 後見人ヨリ登記ヲ請フキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出スヘシ

第三條 初知登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ區戶長ハ証明シタル印鑑ヲ登記所ニ差出
スヘシ

第四條 地所ニ付キ初知登記ヲ請フ者ハ地券ヲ登記官ニ示スヘシ

但現ニ質人中ノ地所ニ付テハ此限ニ在ラズ
船舶ニ付テハ鑑札ヲ示スヘシ

(訴訟門) (登記法手續)

但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 建物付ニ登記未請ナキハ其圖面ヲ登記所ニ差出スベシ

建物ノ圖面ハ即地ノ形狀坪數（段別）方位及建物ノ形狀間尺位置等ヲ記シ登記ヲ受クヘキ建物ノ圖ハ黒引黒字ト爲ス登記外ナル建物アルキハ其圖ハ朱引朱字ト爲スベシ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者双方之ニ署名捺印スベシ

但同第十五條第三項ノ場合ニ於テ親屬又ハ近隣兵主之ニ連署スベシ

地所船舶ニ付圖面アルキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第六條 地所ヲ分割シテ賣買讓與シ又ハ質入書入ト爲スルハ前條ニ準シ其圖面ヲ差出ス

第七條 裁判執行上ノ雜賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其登記ヲ請ヒ又ハ地所建物船舶ニ關スル差押假差留假差留假處分及地所建物ノ収益差押ニ付キ記入若クハ取消ヲ請フニハ裁判所ヨリ其命令書ヲ受ケ之ヲ登記所ニ示スベシ

裁判言渡ニ依リ登記變更若クハ取消ヲ請フモ亦前項ニ同シ

第八條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スルキハ登記所ノ命令ニ從ヒ登記料ヲ納ム

第九條 登記濟ハ証ヲ請フ者ハ第三號書式ニ準シ物件等ヲ記載セル願書ヲ登記所ニ差出

スベシ

第十條 登記ヲ受ケル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツベシ

但其他物件質入書入又ハ差押差留等ニ依ルキハ債主又ハ差押差留等ノ權利者ノ連印ヲ要ス地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲スベシ

第十一條 船舶ノ定繫所ヲ更改シタルキハ原登記所ヨリ登記簿ノ謄本ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フベシ同一ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入シタル場合ニ於テハ其登記所ニ登記ノ變更ヲ請フベシ

第一號書式（用紙半紙半截）

住所 賣渡人 氏名 住所 買受人 氏名

所賣物 價金何圓 此登記料金何圓何錢 又ハ...

（訴訟時）（登記法手続） 一一六一

又ハ 何々買入ニ付登記願

此貸借金何圓

又ハ 此登記料金何圓何錢

家督相續ニ付登記願

此價格金何圓

又ハ 此登記料金何圓何錢

何々拂下ヲ得候ニ付登記願

此拂下代價金何圓

又ハ 此登記料金何圓何錢

何々登記ノ原本書ハ拔書下付願

此手数料金何錢

又ハ

何々登記簿閱願

此手数料金何錢

又ハ

登記取消又ハ變更願

此手数料金何錢

他皆以上ノ例ニ倣ヒ各別ニ認ムベシ

第二號書式(印鑑用紙五寸横一寸但厚紙ヲ用フベシ)

印鑑証明願

區役所又
長月長役印鑑

何國何郡何町何番地

何 某

右印鑑御證明被成下度奉願候也

住所 氏 名 印

某區長何某殿

某區長 何

某

官印

右印鑑相違無之候也

年 月 日

○登記取扱規則(十九年十二月司法省)

○第一章 登記所印章及ヒ登記簿

第一條 登記所ハ簿書ヲ以テ其署名ヲ刻ミタル印章大小二顆ヲ調製シ其印形ヲ管轄始審裁

(所管門) (登記法手續)

判所ニ届ケ置クベシ

第二條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分テ別冊ト爲スベシ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設クベシ

但シ事件寡少ナル町村ニ於テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村ニ見出テ付スベシ

ニ見出テ付スベシ

第三條 登記簿ハ一冊紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題(登記簿用紙申物件ノ

以下)及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分テ仍ホ其表題及ヒ各區ノ數欄ニ分ツモノトス其表題ハ登記

法第七條ノ一二三四ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ所有權ノ得有即チ賣買讓與等ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ抵當即チ質入書入ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ執行上ノ抵當即チ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ登記スルノ所トス

第四條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ始審裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ別冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ

第五條 登記簿ハ始審裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ且毎葉ニ製印ス可シ

第六條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ始審裁判所長ニ申告シ更ニ分合

セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可ク又ハ一冊毎ニ其現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事
前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事
件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

○第二章 登記手續

第七條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願者ノ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其受

付事件ヲ記載シ番號ヲ付スベシ

第八條 登記官ハ受付番號ノ順序ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ又ハ請求書ヲ審査シ且登記簿ニ就キ

本人ノ所有物件ナルコトヲ確認シ仍ホ質入書入又ハ差押差留等ノ記入ノ有無ヲ調査シ若シ

是等ノ登記アルキハ之ヲ本人ニ示シタル上登記ノ手續ヲ爲スベシ

登記官ハ登記ヲ爲ス前本人ノ印影ヲ檢シ區長ノ証明アル印鑑ト符合スルコト非サレハ登

記ヲ爲ス可ラス

第九條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初メテ登記ヲ爲ス場合ニ於テ治安裁

判所及ヒ郡役所ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ登記法第四十條ニ記載スル

証書ニ依リ戶長役場ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ其戶長役場ノ公簿若シ

ハ登記法第四十條ニ記載スル証書ニ依リ物件ノ所有者ヲ確認シ其物件ニ故障ナキニ於テ

先ツ登記簿表題ニ部ニ其物件ヲ記載シ所有者ヲシテ之ニ認印セシメタル上各區ニ登記

ノ手續ヲ爲ス可シ

(訴訟門)

(登記法取扱規則)

第十條 抵當ヲ登記スル場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付何々ノ証書(地券登記法第四十條ニ記載)及ヒ何々ノ公簿(前條ノ公簿ニ依リ記載セシメタル)ニ依リ記載セシメテ記シ負債者即チ物件ノ所有者ヲシテ所有者ノ欄内ニ署名捺印セシメタル上乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ
執行上ノ抵當ヲ記入スル場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルキハ登記官ニ於テ前條及ヒ本條前項ノ手續ヲ爲シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ其側ニ認印シタル上丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲ス可シ

但シ後日其物件ニ關シ所有者ヨリ他ノ登記ヲ出願シタルキハ所有者ヲシテ物件ニ認印シ及ヒ其氏名ノ下ニ捺印セシム可シ

第十一條 登記物件ノ番號ハ初メテ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス

但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種數ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且ツ合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十二條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルキハ表題部中

取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲スル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記スヘシ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ朱抹ス可シ一物件ヲ割キタルキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載スヘシ番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スヘシ

第十三條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入ト爲シ若クハ差押差留等ト爲スルキハ乙區若クハ丙區ノ抵當事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押差留ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲スヘシ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲スルキハ各番號中乙區抵當事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 質入書入ト爲リタル物件ヲ賣買讓與スルキハ甲區登記事由欄内ニ買受人讓與人ニ於テ其質入書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲スヘシ

第十五條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付ス可キ物件已ニ舊番號ノ物件ト共ニ質入書入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號(舊番號)ノ物件ト連帶シテ抵當物トナリタルモノナル

(附註) (登記法取扱規則)

コト付記スヘシ

其抵當ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ抹消スヘシ

第十六條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ(相續ノ場)又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等抵當權ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ負債主承諾ノ上登記ヲ出願シタルキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ質入書入ノ債主債權者ト協議ノ上抵當物件ヲ引取リ所有者トナリタル場合ニ於テハ乙區抵當取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十七條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

第十八條 登記法第十五條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シテ華族世襲財產ナルキハ地券及ヒ同第四十條ニ記載スル證書ニ依リ世襲財產タルコトヲ認メ其旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第十九條 賣買讓與其他ノ方法ニ因リ會テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其所有權ノ登記ヲ出願スルキハ第九條ノ例ニ準シ之ヲ登記スヘシ

第二十條 従前ノ公證簿ニ登記セシ質入書入ノ取消ヲ願出タルキハ手数料ヲ徴收セシ舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ
若シ變更ノ登記ヲ願出タルキハ第十條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區

變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收スヘキモノトス

第二十一條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シ其旨ヲ届出タルキハ表題部中取消ノ欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ抹消スヘシ殘餘アルキハ第十二條

第三項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載スヘシ
地目變換ヲ届出タルキハ表題部中記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ登記スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收セサルモノトス
第二十二條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定案所ヲ更改シ其登記ヲ請フ者アルトキハ轉

入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ抵當物トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記スヘシ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ抹消スヘシ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルキハ原登記所ヨリ登記簿謄本ニ其旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其謄本ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知書ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ取消ノ手續ヲ爲スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一條第二ノ規則ニ依リ變更及ヒ謄本ノ手数料ヲ徴收スルモノトス

第二十三條 登記簿ニ記載スル願入ノ氏名ハ本人ナシテ自署セシメ其名下ニ捺印セシムヘシ

(附則) (登記法取扱規則)

シ若シ自署スル能ハサルキハ登記官代書シ其旨ヲ登記スヘシ
第二十四條 登記事件ニ附属スル圖面アルトキハ登記簿表題部中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ

登記物件ノ番號ヲ記シ登記官之ニ認印シ帳簿ニ編入スヘシ
第二十五條 登記ノ爲メ差出シタル契約書ニハ登記簿ノ上登記官之ニ登記物件ノ番號ヲ記

帳シ且ツ認印シテ本人ニ還付スヘシ
第二十六條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルキハ其登

記簿中未ダ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫ス之ニ其番號ノ第二ナルヲ付記シ
原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載スヘシ第三以下ノ

續ク設クルキ亦此例ニ準ス
前項ノ場合ニ於テ新用紙ニ原用紙ハ記載アル登記ノ順番ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ

第二十七條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字体ハ楷書ヲ用ヒ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ員數及ヒ

年月日ヲ記スルコトハ必ス一二三ノ文字ヲ用フヘシ
登記ヲ爲スコトハ之ヲ墨書スヘク訂正若クハ挿入等ヲ爲スコトハ之ヲ朱書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄スベカラズ若シ刪除スルキハ讀得ヘキ爲メ字体ヲ存スヘシ
訂正挿入削除等ヲ爲シタルキハ本人ヲ之ニ認印セシムヘシ

第二十八條 後見人若クハ代人ヨリ登記ヲ出願セシキハ後見人タルノ證書若クハ代理ノ委

任狀ヲ差出サシメ之ヲ帳簿ニ編入スベシ

前項ノ證書ヲ差出サルキハ登記ヲ爲ス可ラス
第三十九條 登記官自己ノ權利義務ヲ登記スヘキ場合ニ於テハ治安判事及ヒ郡長ハ書記戶

長ハ次席吏員ヲシテ代テ登記ヲ爲サシムヘシ

第三章 帳簿

第三十條 登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 地所登記簿
- 二 建物登記簿
- 三 船舶登記簿
- 四 受付帳
- 五 登記見出帳三
- 六 印鑑簿區戶長ノ證明シタル印鑑ヲ挿入シタルモノ
- 七 謄本下付帳
- 八 登記済証下付帳
- 九 圖面綴込帳
- 十 請求書綴込帳行政廳ノ登記請求書ヲ綴込タルモノ
- 十一 登記願書綴込帳登記方第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ
- 十二 證明書綴込帳登記法第四十條ノ證明書及ヒ印鑑證明等ヲ綴込タルモノ
- 十三 名刺綴込帳
- 十四 代理証書綴込帳
- 十五 届書綴込帳
- 第三十一條 登記簿ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者アルキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付スヘシ

(訴訟門) (登記法取扱規則)

但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ抜書ヲ下附スルヲ得ス

第三十二條 謄本ハ登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ルベシ

抜書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ルベシ

第三十三條 登記簿ノ証ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル

上登記簿ヲ朱記シ登記簿下付帳ト割印シテ之ヲ下附スヘシ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ艦札ノ番號ニ

依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノアルハ地券面ノ符號ヲ番號ノ下ニ記載ス可ク

同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別

ス可シ番號若クハ符號ヲ同フスル地所又ハ番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買

讓與質入書入ト爲スルハ其各部ノ地若クハ建物ニ于テ丑寅卯ノ符號ヲ付シテ之ヲ區別スベ

シ

前二項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシテ非常持退ノ準備ヲ爲シ勉

テ紛亂毀損ヲ豫防スヘシ

登記ニ關スル帳簿ハ裁判所ノ命令アルニ非サレバ登記所外ニ出スルヲ得ス

第三十六條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルハ外吏員ノ面前

ニ於テ之ヲ閱覽セシムベシ

第三十七條 登記所ニ於テハ毎月登記件數表ヲ調製シ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ管轄始審裁

判所ニ送致ス可シ其裁判所ニ於テハ之ヲ取極メ合計表ヲ付シ其月末迄ニ其廳ヲ發シ司法

省ニ差出スベシ

第四章 登記料手数料及ヒ評價費用

第三十八條 登記料ハ登記ヲ爲ス前ニ之ヲ納メシムベシ登記事件ノ取消若クハ變更ノ登記ヲ

請フ者ノ納ム可キ手数料ニ付テモ亦同シ

第三十九條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記所ハ其費用ヲ見積リ

登記料ヲ納ムル者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第四十條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差

出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見

ヲ異ニスルハ更ニ評價人ヲ撰定ス可シ

第四十一條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キハ豫納金ヲ以

テ之ヲ支辨シ殘額アルハ之ヲ還付ス可シ不足ナルハ之ヲ納完スル迄登記ヲ爲ス可ラ

ス

若シ登記所ニ於テ費用ヲ負擔ス可キハ豫納金ノ金額ヲ還付ス

(附註) (登記法取扱規則)

○公證人規則(明治十九年八月十一日)

第一章 總則

- 第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應ジ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス
- 第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有ス
- 第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ証據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス
但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止ス可シ又民事裁判所ニ偽造ノ申立アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得
- 第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其居宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フヘシ但役場外ニ住居セシトスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フヘシ但シ受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ニ公正ノ効ヲ有セス

ハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ニ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ囑託人ノ求メテ其理由ヲ記シテ渡スヘシ

第九條 公證ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得ス

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ印鑑ヲ差出サ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出ヘシ

第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル郵便紙ヲ用フ可シ

第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

- 第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ
- 第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出ヘキ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

(訴訟門) (公證人規則)

- 第三 抄錄正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ
- 第四 正本勝本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得ヘキモノ
- 第五 抄錄正式勝本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得ヘキモノ
- 第六 勝本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノ
- 第七 抄錄 本原本ノ一部分抄寫シタルモノ
- 第八 見出帳日々授受シタル書類ノ番號書類等ヲ順次ニ記入スルモノ
- 第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス
- 第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ原本ヲ渡スヘカラス
- 第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩スヘカラス
- 第十八條 第二章 公證人ノ選任及試験
- 第一 滿二十五歲以上ナル事
- 第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ル、事
- 第三 定式試験及第證書ヲ有スル事 但裁判官檢察官タリシ者及法學士法科大學卒業生代理人ハ此條件ヲ要セス
- 第四 丁年者三名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

- 第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ景況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司法大臣之レニ定ム
- 第二十條 左ノ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス
- 第三 公權剝奪若シテ停止中ノ者
- 第三 盜罪詐僞罪賄賂收受罪及贓物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者
- 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償終ヘキ者
- 第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者
- 第四十一條 公證人ノ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ニ定メ少クモ二箇月前ニ告示ス
- 第四十二條 試驗委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官三名檢査官一名トシ司法大臣臨陣時之命ニ依リ之ヲ命ズ
- 第二十三條 試驗科目ハ公證人規則 民法 訴訟法 商法其他公證人ノ職務ニ關スル法律命令ニ依リ
- 第二十四條 公證人若シテ欲差利者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始審裁判所若シテ控訴院ニ經テ司法大臣ニ差出スヘシ
- 第二 但裁判所檢察官若シテ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代官ニシテ其免許狀及以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

(訴訟法) (公證人規則)

第二十五條 公證人以司法大臣之委任スル者ニシテ...

第二十六條 試驗方法ハ筆記口述ノ三種トシテ筆記試驗ニ合格セサル者ハ口述試驗ヲ受ク...

第三章 證書

第二十八條 公證人證書ヲ作ルコトハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一...

公證人囑託人ノ氏名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若シハ戶長ノ證...

第二十九條 左ニ掲ケル者ハ立會人タルコトヲ得ス...

第三十條 證書ハ其本旨外左ノ件々ヲ記載スベシ...

第三十一條 證書ヲ作ルコトハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス...

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス...

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄...

外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字...

白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効チ有セス...

第三十條 證書ハ其本旨外左ノ件々ヲ記載スベシ...

第三十一條 證書ヲ作ルコトハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス...

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス...

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄...

外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字...

白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効チ有セス...

第三十條 證書ハ其本旨外左ノ件々ヲ記載スベシ...

第三十一條 證書ヲ作ルコトハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス...

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス...

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字並ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄...

外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字...

白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効チ有セス...

(訴訟門) (公證人規則)

第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然レ後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ
公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス
若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ

第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可キヲス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シモシ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ其證書ハ公正ノ効チ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連續ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本

書ニ捺印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係シ書類ハ之ヲ原本ニ連續スルコトヲ得之ヲ連續シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印スヘシ

第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用スヘシ

第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限り權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡スル之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効チ有セス

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作りタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テス原本ヲ作りタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ヲ立會シ以テス可シ義務者出席セサルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他方公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記

一員ヲ立會シ以テ之ヲ作ルヘシ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作りタルトキハ其末尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連續スヘシ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得キ第三十二條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ルベシ

(訴訟規則) (公證人規則)

正本又は正式謄本ニハ權利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場所ニ於テハ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

第四十六條 正本又は正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者チシテ署名捺印セシムヘシ

第四十七條 正本又は正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經テ原本トシテ保存スヘシ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係チ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用部分ヲ抄録シテ正本又は正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又は正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又は抄録正式謄本ヲ渡スヘカラス又抄録正本又は抄録正式謄本ヲ渡シタル者ロム更ニ正本又は正式謄本ヲ渡スヘカラス之ヲ渡

スルニ雖モ其効チ有セス
第四十九條 正本又は正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効チ有セス

再度以上正本又は正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ノ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又は正式謄本ヲ渡スコトヲ命

スルコトアル可シ

其正本又は正式謄本ニハ幾度ノ正本又は正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効チ有セス

第五十條 抄録正本又は抄録正式謄本ハ總テ正本又は正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効チモ亦同シ

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應ジ之ヲ渡スヘシ

第五十二條 謄本ニハ原本ノ全変ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印スヘシ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印スヘシ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ其命令書ヲ原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取人チシテ署名捺印スヘシ

第五十五條 公證人ハ見出帳ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其所長ノ官印ヲ受クヘシ

第五十六條 見出帳ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名
(訴訟門) (公證人規則) 一一八三

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ヲ授受

第五十七條 公證人死去失踪免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シ直ニ後任者ノ命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ命シテ其事務ヲ兼任セシムヘシ役場ヲ遷シタル時キハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命スヘシ

第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト認ムル場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲スヘシ

第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者

ハ前任者ト立會ヒ書類ヲ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受スヘシ

死去失踪其他以事故ニ因リ引渡ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ルヘシ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ管轄始審裁判所ニ差出スヘシ

第六十條 又公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲカスニ及ハス書類ノ保

存ハ停職者之ヲ擔當スヘシ兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フヘシ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引續キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印スヘシ

受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出スヘシ

第六十二條 停職者復任スル時キハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命スヘシ

第六十三條 前任者ハ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其受繼人タル旨ヲ附記スヘシ

本任者ノ原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記スヘシ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メラル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付テ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付テ拾錢 但一行ニ十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス

第六十六條 囑託人ノ請求ニ依リ先シ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得

(訴訟同) (公證人規則)

一一八五

一一八四

但其原本ヲ作ラサルトキハ原本手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ行テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ二拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滯留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ

第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコトヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料ノ計算書ヲ與フヘシ

第七十一條 手数料等ニ係リ争ノ生シタルキハ其金額ニ拘ラス管轄始審裁判所ニ訴フヘシ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ過料ニ處ス

第八條ニ違ヒタル時

第十一條ニ違ヒタル時

第十三條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第三十一條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十二條ノ第一項ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サザリシ時

第三十五條ニ違ヒタル時

第四十條ニ違ヒタル時

第四十一條ニ違ヒタル時

第四十二條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十六條ニ違ヒタル時

第五十二條ニ違ヒタル時

第五十三條ニ違ヒタル時

第五十四條ニ違ヒタル時

第五十五條ニ違ヒタル時

第五十九條ニ違ヒタル時

第六十一條ニ違ヒタル時

第六十三條ニ違ヒタル時

第七十四條左ノ違犯ハ貳圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

(訴訟門) (公証人規則)

第四十三條ニ違ヒタル時

第四十四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第四十五條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第四十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條ノ左ノ違犯ハ五圓以上三拾圓以下ノ過料ニ處ス

第七條ニ違ヒタル時

第十條第三項ニ違ヒタル時

第二十八條ニ違ヒタル時

第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時

第三十三條ニ違ヒタル時

第三十四條ノ第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第三十六條ニ違ヒタル時

第三十七條ニ違ヒタル時

第三十八條ニ違ヒタル時

第三十九條ニ違ヒタル時

第七十六條ノ左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停業ニ處ス

第四條ノ第一項ニ違ヒタル時

第十五條ニ違ヒタル時

第十六條ニ違ヒタル時

第十七條ニ違ヒタル時

第七十七條 公證人前數件ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴院ニ抗告ス

第七十八條 公證人停職ニ當リ所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法官ニ其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載セラルル處分ヲ受ケ又ハ身許ニ金ヲ差入レサルトキ亦前

項ニ同

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ与シタルハ之ヲ賠償スヘシ

◎公證人規則施行條例(明治十九年八月)

第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

若シ公證人ノ員數不足ナル時ハ受持區ニ依リテハ全

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル

第三條 控訴院長經司法大臣ノ認可ヲ請フ

(訴訟門) (公證人規則) (公證人規則施行條例)

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達シ可ク...

第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受ケル後火災其他ノ事故ノリテ他ニ轉居セントスルモ亦前條ノ手續ニ從フヘシ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲クベシ...

第五條 公證人規則ニ從ヒ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗願書ニ履歷書ヲ添ヘ試驗期日ノ告示...

第六條 試驗願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ與書ヲ受ク可シ

第七條 試驗委員ハ筆記試驗ノ答案ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試驗ヲ行フ

第八條 試驗問題答案ノ適否ハ試驗委員ノ判斷ニ決スルモノトス

試驗ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム...

第九條 試驗委員ハ口述試驗ノ大略及試驗全體ノ結果ヲ記錄ニ記載ス...

第十條 試驗ニ及第シタル者ハ試驗委員ノ連署ヲタル及第證書ヲ授與スヘシ

第十一條 試驗委員ハ試驗ニ關スル一切ノ書類ヲ其試驗ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院...

第十二條 公證人ヲシテ欲スル者ハ其願書ニ試驗及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許...

第十三條 公證人願書受ケル始審裁判所ノ裁判長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正...

第十四條 司法大臣ニ差出タルハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲...

第十四條 公證人願書ヲ直ニ控訴院ニ差出タルハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲...

(訴訟門) (公證人規則施行條例) 一一九一

且意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ
 第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハントスル地ヲ明記スヘシ
 第十六條 司法大臣公證人ヲ任スルハ其辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フヘキ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ニ經テ本人ニ下付ス
 控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録スヘシ
 第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若シハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ムヘシ
 第十八條 公證人ノ納ム身元保證金ノ額ハ左ノ如シ
 東京及大坂 金五百圓
 他ノ地方ニ於テハ 金四百圓
 入口貳拾万未滿拾万以上アル受特區 金三百圓
 入口拾万未滿アル受特區 金二百圓
 前項ノ金額ハ入口ニ増減アリト雖モ既ニ完納セラル者ハ之ヲ増減セズ
 第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間其職務ヲ行フヲ得ス
 公證人任令ノ辭令書ニ受取タル日より三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルハ公證人規

則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス
 第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定ムル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス
 第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ消滅シタルハ管轄始審裁判所長公證人ニ命スルニ命スヘシ
 公證人保證金ヲ補充スル迄始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ
 公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルハ始審裁判所長ハ控訴院ニ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フヘシ
 第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生ズレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アルハ之ヲ還付スヘシ
 第二十三條 公證人其職務ヲ罷メタルハ身元保證金ヲ還付スヘシ
 第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルトキハ管轄始審裁判所ハ控訴院ニ經テ其旨ヲ司法大臣ニ具申スヘシ
 停職者復任タルハ及罷免手續ニ從テ免職ノ處分ヲ受ケタルハ始審裁判所及控訴院ハ
 第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタルハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入スヘシ
 (訴訟門) (公證人規則施行條例)

第二十六條 公證人規則ヲ定ムル總則處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒテ之ヲ定ムル

第二十七條 公證人試驗ノ書式履歷書及公證人證書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試驗證書式

第二十四條 公證人試驗紙紙類
第二十三條 公證人試驗紙紙類
第二十二條 公證人試驗紙紙類
現住所
氏名印

私儀公證人試驗相受度此段奉願候也

公證人規則施行細則
現住所
氏名印

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

前二十年 月 日 氏名 區長又ハ戶長 印
第二 履歷書式

一 公證人規則第二十二條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候
前年 月 日 氏名 印
前書ノ通相違無之候也

履歷書紙類

一 公證人規則第二十二條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候
前年 月 日 氏名 印

一 何年何月何日 何年何月迄 何某ノ就及ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業
一 何年何月何日 職任官進退實前等

一 公證人規則第二十二條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候
前年 月 日 氏名 印

前書ノ通相違無之候也
區長又ハ戶長 印

第三 公證人證書式
公證人規則紙類

族籍 戶主嗣子又ハ二男兄弟ノ別 氏名 年 齡

私儀何府何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候

(附註門) (公證人規則施行條例) 一一九五

三村御登用被下度試驗及第證書(官配學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此
段奉願候也

一一九六

年月日

現住所

名 印

司法大臣謹殿

私儀何府何國某治安裁判所管下及何府何國某治安裁判所管下(某始審裁判所管下又ハ其
控訴院管下)ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ
度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試驗及第證書(官配學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品
行保證書相添此段奉願候也
前被ノ式ハ前ニ同

○身代限(明治五年九月司)

凡ノ動産不動産取引ノ糾紛ヲ審判スルニ原告被告雙方ノ内一方ノ者負公事ニ決スル時ハ日
切濟方申付候上仍ホ不相濟ニ於テハ身代限申付候方法ニ有之候處自今日切濟方ノ舊法ヲ廢
シ一方ノ者負公事ニ相決シ直ニ濟方不相成候キハ身代限ノ方法ヲ執行可致候事

○身代限揭示案(明治七年七月)

明治六年(五月)第百八十一號布告身代限揭示案左ノ通改正候條此旨布告候事

何町(村) 何 誰

右ノ者何町(村)何ノ誰ヨリ何々(其事目ヲ掲之)出訴ニ及ヒ吟味ノ上身代限申付ルニ付若
シ何ノ誰ニ係リ金數其他諸取引ノ所有之者ハ當何日ヨリ來ル何月何日迄日數六十日内ニ
當裁判所へ訴出ツヘシ右日限過去訴出ルニ於テハ此度身代分散金ノ分配ニハ不差加者也
揭示案

何町村 何 誰

右ノ者借金出入ツ未吟味ノ上身代限申付ルニ付所持品左ノ通來ル何日ニ入札拂爲致候條
入札致度相望者ハ當日何日同人方へ可罷出者也

一 建築土藏
一 所持品何
右何月何日入札拂

明治六年(十二月)第四百二十二號布告

地租不納ノ者身代限ヲ以テ取立テ其時ノ業尙可他ノ負債ニ關係可致筋ニ無之ニ付自今六十

(訴訟門) (身代限)

一一九七

日間揭示スル事及シテ直ニ處分可致候條此旨布告候事

○華士族平民身代限規則(明治五年六月第百八十一號布告)

今般華士族平民共身代限規則被定候條左ノ通相違候事
但當壬申八月初日ヨリ施行可致事

華士族平民身代限規則

平民身代限抵償トシテ差押可ラサル品類

一時服着替共(男女共各)二通宛

夜具(男女共各)一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ルマテ
最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主ヨリ鑑定ノ者(道具屋ノ類)一人宛差出シ
外入札ト共ニ入札致サセ(町村)役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘキ事

一食料
家族ノ人口ヲ量リ一ヶ月間用ヒル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

但男丁ハ一日ニ付五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二

合宛ノ事
合宛ノ事ニ合テ一ヶ月間用ヒル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

鍋釜及炊具各一通
華士族身代限抵償トシテ差押可ラサル品類

一家祿(此項五年第百二十七號布告ヲ以テ取消ス)

一大小類(男一人ニ付各)一腰宛

一冠服(男子一人ニ付各)一通宛

一時服着替共(男女共各)二通宛

一夜具(男女共各)一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五十兩ニ
至ルマテ最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主鑑定ノ者(道具屋ノ類)一人宛
差出シ入札ト共ニ入札致サセ(町村)役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定

一鍋釜及炊具類各一通

右身代限ノ節ハ三十三日間裁判所門前高札場並ニ本人家宅ニ揭示ヲ出シ其次第傳承日限
中道願ハ着取紙ハ上可處置事
但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ之ニ記載セザル事

(訴訟門) (華士族平民身代限)

一前條ニ記スル所ノ引残スヘキ必要物件ノ内未タ此價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出
 レバ現品ヲ取戻ナラ得ヘシ
 但現在若用ハ衣服夜具ハ此限ニテス
 一身代限ハ物件ハ入札拂ニ出スヘシ尤モ金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク拂フ
 ヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費ヲ償フニ過クヘカラス
 但入札拂ノ日ヨリ三日間ニ其物品及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前並ニ其者ノ居宅及ヒ各地
 士民群集ノ所ニ揭示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テ又之ニ記載セシムヘシ且ツ貸
 主借主ヨリ差出セシ鑑定ノ者モ他人ト共ニ入札致サセ(町村)役人ニ於テ總入札ヲ比較
 シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ニ差出スヘシ

明治六年三月第八十八號布告

借借借財借出入ニ付身代限規則左ノ通被定候條此段相違候事

○借借身代限規則

- 一 抵償トシテ差押テ可ラサル品類
- 一 食料
- 一 寺内ノ人口ノ量ノ借借ハ一日コ五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合尼及婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛一ヶ月間用ユル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

一建物

法用ニ必用ナル個所

- 一 但本堂等ニ建添候トモ榮耀ニ屬スル個所ハ此限ニアラス
- 一 寄付帳ニ記載スル部分
- 一 什物帳ニ區別シテ記載スル古來傳承ノ寶物並ニ法用ニ必要ナル部分
- 一 法衣(寺主並ニ所化及尼共)各二通宛
- 一 時服着替共(寺主並ニ所化及婦女)共各二通宛
- 一 夜具(並ニ所化及婦女共)各一通宛
- 一 鍋釜及炊具類各一通
- 一 本人職業ヲ爲スニ必要ナル金額五十圓ニ至ル迄ノ物品ヲ差除ク等其他ノ方法ハ華士族平民身代限ニ同シ

○明治六年三月第八十九號布告

今般僧侶身代限規則被相定候ニ付テハ寺院所有ノ田園建造物諸器什物家ヨリ寄付ノ分又ハ
 法用ニ必要ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候ヲハ差支候條左ノ規則ニ從
 ヒ寄付帳什物帳相續リ置可申候
 一寄付帳ニハ何年何月何誰寄付ノ田園及別建造物坪數諸器物ノ價分ニ至ルマテ詳細ニ記載

(縣廳門) (借借身代限)

スヘシ

一 什物帳ニハ法用ニ必用ノ分并ニ寺資ヲ區別シ記載スヘシ
一 右二帳ニ部宛相綴リ權家法類共兩人以上并ニ其地ノ戸長検査ノ上各姓名ヲ署シ之レニ調印シ一部ハ戸長役所ニ藏シ一部ハ其寺院ニ置クヘシ

○自代限財產先取特權(明治十年十一月)

身代限財產先取特權左ノ通相定候條此旨布告候事

第一 租稅

但シ特別ニ財產ヲ指定シテ賦課セサル地方稅徵收ハ土地家屋ヲキ其他ノ財產ニ對シテノモ先取特權アリ

第二 裁判費用

第三 公證ヲ經タル抵當アル貸金

但シ其抵當品ヲ公賣シタル代金ノモニ對シテ此權アリ

第四 通常ノ貸金並ニ損害金

○身代限者貸付置キタル金穀證文アル時ノ取扱方

明治七年(九月)司法省第二十三號達 各裁判所各府縣金穀ヲ借り返濟チ爲シ能ハサル者賦

判所ノ處分ニ因リ身代限ニ遭ヒ候トキ所有物ノ内他人ニ貸付置キタル金穀ノ證文之レアル節ノ取扱明治五年壬申第四十號ヲ以テ相違置キ候所詮議ノ次第有之左ノ通り改正候條此旨相違候事

第一章

各裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ爲スニ當リ身代限ニ遭フ者ノ物件ノ中ニ身代限ニ遭フ者ヨリ他人ニ貸付置キタル金穀ノ證文有之ハ其證文ノ定期期限ノ満未滿ヲ論セス證文ニ記名シタル負債主ニ眞偽ヲ尋ネ無相違キハ其負債主ヨリ證文面ノ通り可受取旨身代限ニ遭フ者ノ債主ニ申渡シ別紙離形ニ做ヒ證文ニ裏書ヲ爲シ其債主ニ相渡ス可キ事

第二條

前條ノ場合ニ於テ債主其證文ヲ受取ルチ好マサルトキハ其證文ハ身代限リニ遭ヒタル者ニ所持致サセ置クヘキ事

但シ定期期限ノ證文ニテ負債主ノ家屋些少ナルモ身代限ニ遭フ者ノ債主ニ於テ其負債主ノ身代限リヲ以テ現金ノ割賦ヲ受ケ度旨申立ルニ於テハ留ノ通り處分スヘキ事

第三條

債主數名ニシテ身代限ニ遭フ者ヨリ他人ニ貸付置キタル金穀ノ證文一通又ハ數通ナルハ其數名ノ債主ヨリ入札致クサセ落札ノ金員ヲ以テ其落札シタル債主ト其他ノ債主トヘ金高ニ應ジ配當シ其落札ノ證文ニハ一通毎ニ第一條ノ方法ヲ據リ處分スヘキ事

(訴訟門)

(身代限財產先取特權)(身代限者貸付置キタル金穀證文アル時ノ取扱方)

但レ數名ノ債主盡ク入札ヲ好マサルキハ第三條ノ處分ニ及フヘキ事

第四條

證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取リタルキハ其金員中ヨリ己レノ受取ルヘキ金高ト之レヲ受取ルコト付テノ證入費ノ金高トヲ引去リ其餘金ハ證文ニ記載シタル債主ニ返シ而レテ右ノ計算ヲ爲シタル明細勘定書ト餘金ヲ返シタル請取書トヲ以テ裁判所ニ届出ヘキ事

第五條

若シ證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取ントスルニ證文ニ記名レタル負債主モ亦身代限ニ遭ヒテ證文ニ記シタル金員ノ全部又ハ幾部ヲ返シ能ハサルキハ證文ニ記名レタル負債主ヨリ證文ヲ落札シタル債主ニ對シ右ノ部分ノ金員ヲ身代持直シ次第返濟スヘキ旨ノ證文ノ裏書ヲ裁判所ヨリ受取ルヲ得ヘキ事

但此時先キニ身代限ニ遭ヒタル者ノ證書證文ヲ持出ヘシ裁判所ニ於テ之ニ金員差引ヲ

記載シ二通ノ證書ヲ一綴ニシテ下付スヘシ

第六條

證文ヲ落札シタル債主證文ニ記名シタル負債主ヨリ金ヲ受取ルヘキ期限ニ至ラサル證文ニ記載シタル債主即チ先キニ身代限ニ遭ヒシ人ハ身代ヲ持直シタルキハ其ノ對シ毎ヒ金數ノ返濟ヲ請求スルヲ得ヘキ事

○證文ノ裏書ニ關シテ

表書ノ貸主何ノ誰僱年號月日身代限申付條ニ付此證文ハ(入札ヲ以テ渡シタルキハ此間ニ入札ヲ以テノ五字ヲ書キ加フヘシ)某府縣管下某國某郡某町(村)何ノ誰ヘ相渡候條此証書ノ金額右何ノ難濟方致候上其段當裁判所ニ届出ヘキ事

○身代限ノ者ニ對シ貸金數約定期限未滿内ノ分處分方(明治六年七月第二百五十二號布告)

負債者身代限ニ遭フ節其者ヘ對シ貸金數其他義務ヲ得ヘキ者定期期限未滿内ノ分處置振左ノ通被定候條此旨相達候事

第一條

貸金數又ハ義務ヲ得ヘキ者定期期限未滿内ニハ訴ヘ出ツルコトヲ許サ、ル規則ナレバ其債主又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ

第二條

定期期限未滿内ニ訴出ル者ハ滿期後訴ヘ出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產變賣金ノ分配ヲ受シルコトヲ得ヘシ

第三條

請人證人等連印ニテ本人返濟相滞ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文アル之證書ヲ取置キタル(訴訟門) (身代限ノ者ニ對シ貸金數約定期限未滿内處分方)

者ハ本人身代限財産贖買金ノ分配ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノキニ至請人證人ニ掛リ之ヲ訴フルヲ得ヘシ

第四條

身代限ニ遇フ者期限未滿内ノ者ニハ滿期ノキニ至リ返濟セント欲スルキハ別段請人ヲ立テ請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物トナシ違變ナキヲ證明シテ原告人ノ承諾ヲ求ムルヲ必要トス

第五條

負債主滿期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立テ請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物トナシ違變ナキヲ證明シ原告人之ヲ承諾スルキハ其原告人ハ此回ノ身代限財産贖買金ノ分配ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス

第六條

定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遭フ負債主ニ對シ期限未滿内ニ訴フルモ滿期後ニ至リ訴フルモ共者ノ情願ニ任スト雖モ身代限ニ遭フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ贖買ヲ爲スコトヲ拒ムヲ得ヘカラス

第七條

動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル者ハ其財産贖買金ノ内ニテ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時マテハ金高ヲ計算シ受取ルヘキノ求ヲ爲シ裁判ニ於テ

ハ贖買金分配ノ規則ニ從カヒ引當又ハ質物ヲ取置キタル者ニ分配スヘキ金高ヲ引渡スヘシ

第八條

引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内ニ訴出ル時ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ計算シ受取ルヘキノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ贖買金分配ノ規則ニ從カヒ處分ヲナスヘシ

通運門

○農商務省第十一號告示(明治十七年十二月廿七日)

本年本月第三十三號ヲ以テ布告相成候郵便往復葉書使用法方左ノ通相定候條此旨告示候事

- 一 郵便往復葉書ハ發信人發信ノトキ發信返信兩紙連續ノ儘發信紙ヲ使用スルモノトス若シ發信ノハ發信返信兩紙ニ文字ヲ記載セルトキハ返信紙モ亦使用濟ノモノト認ムヘシ

但發信ノトキ返信紙ノ表面ニ返信ニ用ユヘキ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シ又ハ返信紙ノ裏面ニ返信用ノ文會ノ幾部ヲ記入シタルモノハ使用濟ト認メス又發信ノトキ返信紙ヲ截斷シ發信紙ノニ差出ストヲ得ヘシ(十九年發信省第十二號告示ヲ以テ本文中

(通運門) (郵便往復葉書使用法)

一 郵便往復葉書ハ返信ノトキ發信紙ヲ除却シ使用スルモノトス若シ返信人發信紙ヲ除去セサルトキハ郵便局ニ於テ之ヲ除去シ返送スヘシ

○遞信省令第六號(二十九年四月)

地方ニ便宜郵便受取所ヲ置キ貨幣封入郵便ノ外郵便物ノ受付及ヒ郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシメ又郵便貯金預所ヲ置キ貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

一 第一等郵便局區内須要ノ場所ニ郵便支局ヲ置キ本局ノ事務ヲ分掌セシム

○郵便爲替細則及郵便小爲替規程農商務省第二十號告示(十八年九月)

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ拂込タル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ拂渡スモノトス

第二條 爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セス其氏名宿所等ハ差出人ノ指示スル所ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙拂渡局ニ報知スルモノトス

第三條 爲替金額單位以上ノモノハ郵便總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人少望ニ依リ

電信ヲ以テ報知スルコトヲ得

第四條 爲替證書ハ郵便局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ其證書ノ雛形左ノ如シ(略)

第五條 爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及ヒ手数料ヲ前納スヘシ

但電信ヲ以テ報知スルコト望ムハ別ニ電信料ヲ納ムヘシ爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及ヒ手数料ノ便宜原爲替證書金額ノ内ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條 爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサル時或ハ差出人又ハ受取人自ラ證書再渡ヲ請求シ能ハサルトキハ代人ヲ立テ爲替證書又ハ請求書ニ本人記名調印シ代人亦ハ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ

但別紙ニ委任文ヲ記名調印シテ差出スルハ此限ニアラス爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替證書相當ノ位置ニ代人ノ肩書ヲナシテ記名調印ス

第七條 爲替ニ屬スル金銀ヲ受授スルトキハ相互ニ目前ニ於テ之ヲ計算スヘシ

第八條 差出人ニハ振出シ局ニ於テ其拂込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シテ之ヲ保存シ後日爲替金ノ返戻

(通運門)

(郵便爲替細則)

又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證憑トナスヘシ

第九條 爲替受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事實ヲ證明シ證人ヲ立テ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條 爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル願書證書等ニ關シシ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ツヘシ

第十一條 爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受授ニ關スル願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條 爲替金ノ拂渡レテ請求スルモノハ郵便局吏員ノ尋問ニ對シ差出人受取人ノ宿所氏名等ヲ陳述スヘシ又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ満足スヘキ證人ヲ立テ又ハ正當受取人タルコトヲ證明スヘキ證據物ヲ該吏員ニ展示シ若クハ之ヲ差出スヘシ

第十三條 爲替金ノ拂渡ヲ請求スル者アルトキハ左ニ掲クル事項アル場合ニ在リテハ郵便局ニ於テ拂渡シ停延書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交付ヲ停延スルコトアルヘシ

一 爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ

一 爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條 規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止スルモノ

第十五條 爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ前ニ揭示スヘシ

○爲替取扱ヒ休日ハ左ノ如シ

一月一日 二日 三日 新年宴會 孝明天皇祭 紀元節 春季皇靈祭

神武天皇祭 秋季皇靈祭 神宮神嘗祭 天長節 新嘗祭

日曜日

第十六條 驛遞局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ受扱フ郵便局ニ於テ申シ受ヘシ

第二章 爲替振出

第十七條 爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及ヒ爲替料ヲ添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及ヒ受領證書其爲替證書ニ依ルヲ受收スヘシ其爲替願書ニハ受取人入連ヲ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ略符等ヲ附記スルモ妨ケナシ

但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調上差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿所ハ其詳略ヲ斟酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲替金ヲ受ケルニ便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ

但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ願書ニ本字ヲ以テ記載シタル差出人受取人

(通運門) (郵便爲替規則)

ノ宿所氏名ノ傍ニ片假名文字ヲ附記スヘシ

第十八條 爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ拂込金ニ對シテ受領證書ト共ニ之ヲ差出人ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ノ其名宛ノ郵便局ニ報知スヘシ

但電信ニ依ルトキハ其特則ニ依ルヘシ

第十九條 爲替願書ニハ差出人又ハ受取人二名以上運帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載スヘシ

第二十條 差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ本籍住所ヲ記載シ尙其宿所ヲ附記スヘシ

第二十一條 差出人ハ受取人ニ於テ拂渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ヲ記載アル諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ 其爲替電信ニ依ルトキハ但詐偽ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ遞送スル信書ト成ルヘシ同時ニ

ナスルカラス

第二十二條 代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ一般ノ例トス

但其氏名ヲ報知スルモノアルトキモ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場合ハ此限ニ

第二十三條 差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違シタル

事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ 但電信ニ依リ爲替ヲ報知シタル場合ハ在リテハ相當ノ電報料ヲ納ムヘシ

第二十四條 差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ前ニ受取シタル拂込金受領證書ヲ振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ

但受領證書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番號及振出月日等ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章 爲替拂渡

第二十五條 爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル拂渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後拂渡スモノトス

第二十六條 爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辨等爲替報知書ニ符合セサルカ又ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ拂渡局ニ於テ受取人ニ拂渡停止證書ヲ交付シ其事故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停止證書ノ滿期ニ至リテ更ニ爲替金ノ拂渡ヲ申出テ尙ホ規則ノ通手數ノ上受替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條 若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金額ノ誤ナルヲ判明シタルハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現實及取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名刷印シ其金ヲ受取ルコトヲ得

(郵便爲替規則)

第四章 爲替證書再渡

第二十八條 爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次ニ掲ケル第二十九條乃至第三十一條ニ從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上版ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經由シテ驛遞局ニ請求スヘシ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ
但拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書紛失シタルトキ又汚損毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニナリタルトキ

一爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受ケルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻ヲ受ケルコトヲ要スルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ爲替請取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

但差出人ヨリ請求スルトキハ拂込金受領證書ヲ返納スヘシ
一爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章 電信ニ依ル爲替ノ特別

第三十二條

電信ニ依テ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ拂込金ニ對シ受領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ願書ノ諸件ヲ電報スヘシ

第三十三條

拂渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通報スヘシ

受取人ハ拂渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ拂渡局吏員ニ差出し爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十四條

前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以内ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサルトキハ拂渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尙七日以内ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差出人ニ交付スヘシ

第三十五條

拂渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ通報スヘシ

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受取シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ト引替ヘ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條

前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再度電報ニ依リテ其爲替金ヲ受授スルコトヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尙其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムトキハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

第六章 爲替金渡濟通知(明治十九年電信省第百六號告示本省追加)

第三十七條

爲替差出人其爲替差出人ノ渡濟通知ヲ要スルハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

(通運門)

(郵便爲替規則)

第三十八條 爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ証印

ヲ取リ即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條 通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替證書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス

第四十一條 爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セス

第四十二條 通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書收據書ハ通知料納濟ノ印ヲ

押捺シ交付スヘシ

第四十三條 受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記名調印

スヘシ

第四十四條 爲替金渡濟ノ通知ヲ脱漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條 通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月内ニ差出人ヨリ逕遞局長ニ請求スヘシ

此期限ヲ過ルル者ハ之ヲ還付セザルベシ

○遞信省告示第三百十七號(明治二十年六月)

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

三 郵便小爲替規定

第一條 郵便小爲替證書壹枚ノ金額拾圓以下外其額數ハ種別ニ限リ得テ

第二條 爲替ハ小爲替證書壹枚ニ付參錢トス

第三條 小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條 爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及ヒ爲替料ヲ差出ル小爲替證書及ヒ受領證書ヲ

第五條 爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿替氏右ヲ記入シテ送

ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條 小爲替證書行記帳ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂

正ヲ要スル者ハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ニ許可ヲ受クヘシ

但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條 小爲替費取人爲替金ヲ受取トキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證

書ヲ送還スル者信書封皮又ハ其受取人ノ署名ニ證明シテ他人物件ヲ要スルトキハ

之ヲ差出者ハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ

第八條 爲替差出人ハ爲替金ヲ返戻受クルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且ツ受領證書ヲ

郵便局ニ納メ差出人ハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ

第九條 代爲差出人ハ爲替金ヲ受取ル者其爲替證書裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ

且代爲差出人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲ行フベシ

(通則門) (郵便小爲替規定)

第十條 凡為替證書之効用其證書之日附ヨリ六十日ヲ限リトス

第十一條 凡郵便局ノ許可ヲ受テ拂渡局又受取人ノ宿所氏名ヲ發換シ若シハ其宿所氏名
及町庄ノ附屬ノ為替金ヲ拂渡セハルモノトス

第十二條 第六條中依テ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニテス
第十三條 左ニ掲ル場合ニ在テハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ為替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ
為替貯金局ニ再度小為替證書ヲ請求スルハ但第十項ノ場合ハ受取人自ラ之ヲ請求スルヲ得

第十四條 小為替證書有効期限ヲ經過シタルトキハ
第十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第二十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第二十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第二十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第二十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第三十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第三十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第三十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第三十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第三十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第四十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第四十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第四十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第四十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第五十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第五十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第五十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第五十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第六十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第六十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第六十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第六十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第六十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十一條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第七十二條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十三條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十四條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第七十五條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十六條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十七條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

第七十八條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第七十九條 小為替證書ヲ失シタルトキハ
第八十條 小為替證書ヲ失シタルトキハ

(通運門)

(官報ヲ請求シ正ニ郵便ニ差出ス時心得方)

第二 停車場及之ニ附属スル車庫貨物庫等ヲ建築用ニ供スル土地

第三 前項構内ニ常住スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道施設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル機械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道施設ノ爲メ醫藥シ道路橋梁溝渠河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セシムルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受ケルヘシ但共費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橋斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若シハ踏切道ヲ設ケ其其他危險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ柵欄門戶堤防ヲ設ケ若ハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若シハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セシムルニ至ラズニシテ鐵道局長官ニ届出ル

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建築物等ヲ監査セシムル完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スルヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ檢命書ヲ會社ニ示スル

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道施設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建築物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スルヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲシタルトキハ更ニ監査員ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地コソテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下シ其民有ノ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上テ會社ニ拂下シレ但共土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道施設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用ナリタル鐵道用地ニ於テ最初公用土地買上規則ニ據リ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スルコトヲ得

第十七條 會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻セザルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十八條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但共一部ニ對シテ費用ヲ支辨スヘシ

第十九條 政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナシ又ハ其費用ヲ支辨スルモノハ明治十五年第五十九號勅令ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其運送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ配載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト環メ之ヲ約定スヘシ

第二十條 一等旅客二十人ノ座位ニ當リ積量ハ...

第二十一條 一等貨物...

第二十二條 一等車(四圍積)貨物...

(通運門) (私設鐵道條例)

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乘切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服脚具工鐵兵器具天幕等ハ總テ半額ヲ以テ輸送スヘシ但其公務トシテ往復スルハ普通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ但此等囚徒及護送官吏ハ其乘車ノ時ハ其護送官ノ監督ニ依リテ乘車セシムル所ニ限ル

第二十三條 戰時若シハ車變ニ際シテハ徵發命令ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムルハ平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ナル爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ鐵卸用具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第二十五條 鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ新設スル事物ハ會社ニ論議シテ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得ル者於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若シハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若シハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クハトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第三十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニ準ジテ適用スヘシ但此等規則ハ其營業ノ方屬シ經由陸海政府ヲ具申シ認可ヲ受ツルコトヲ以テ其營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十八條 會社於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セシムルコトヲキテ本社所存ノ地方屬シ經由陸海政府ヲ具申シ認可ヲ受ツルコトヲ以テ其營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若シハ之ヲ變更セントスルトキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但此等旅客運賃額及運輸規程ハ鐵道局長官ノ報告スヘシ

第四十條 列車發着時間及廢除規定列車之變更ハ鐵道局長官ノ報告スヘシ

第四十一條 會社於テ營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十二條 會社ハ其財產ヲ全部若シハ一部ヲ抵押シテ負債ヲ弁スルコトヲ得但其價ハ株主ノ承認ヲ得テ之ヲ行フ

第三十三條 會社資本金額十分額外超過スルコトヲ得

第三十四條 會社於テ營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十五條 會社於テ營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十六條 會社於テ營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

第三十七條 會社於テ營業ノ範圍及鐵道局長官ノ報告スヘシ

(通運門) (私設鐵道條例)

第三十四條 鐵道運輸手續及資金ノ割合等ハ 鐵道局長官之ヲ定ムル

第三十五條 政府特許狀下付之日ヨリ滿三十五年後(特ニ營業期限ヲ定メタル者ハ其滿期後)ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權ヲ得ル

第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムル

第三十七條 免狀狀下付之日ヨリ三箇月以内ニ鐵道施設工事ニ着手セズ又ハ豫定期限及延期內ニ竣功セザルハ免狀狀ヲ返納シ金スヘシ但事宜ヨリ其既設ノ鐵道及附屬物件

第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ職務懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルハ會社其賠償ノ責任ヲ負フ

第三十九條 第五條ノ免狀狀ヲ受クシテ株式ヲ募集シ及鐵道施設ノ工事ニ着手セザル時ハ第三條ノ免狀狀ヲ受クヌ又ハ第三條第三條第三條ノ免狀狀ヲ受クヌ又ハ第三條第三條第三條ノ免狀狀ヲ受クヌ

第四十條 本條例ノ施行期日ハ之ヲ定ム

第四十一條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十二條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十三條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十四條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十五條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十六條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十七條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十八條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

第四十九條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ及鐵道ノ正當使用

赴客數人... 其手形... 第四條 偽裝ハ者... 第五條 列車運轉中出入禁止... 第六條 痘瘡等ハ病人ヲ禁止ス... 第七條 吸烟并婦人部屋男子出入禁止... 第八條 醉人及不行狀人扱方... 第九條 鐵道ハ屬スル品物ヲ毀損スル時ノ事何人ニ不限...

第十條 機關車等ハ乘込ヲ禁ス... 第十一條 鐵道地所ハ安ク立入者取扱方... 第十二條 旅客ノ荷物ヲ失毀損取扱方... 第十三條 金高及大切ノ物品ヲ失毀損... 第十四條 金銀紙幣貨幣便切手爲替會社... 第十五條 圖書古器金銀玉者鍍金及諸彫鐫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆器酒類醬類布生熟糸等ノ品物運送方...

(通運門) (道鉄規則及規則)

泊其掛申遺失賠償金... 第十四條 牛馬獸類運送ノ事... 第十五條 運送ノ時... 第十六條 運送ノ時... 第十七條 運送ノ時... 第十八條 運送ノ時... 第十九條 運送ノ時...

何人ニ限リ... 第二十條 規則ニ... 第二十一條 規則ニ... 第二十二條 規則ニ... 第二十三條 規則ニ... 第二十四條 規則ニ... 第二十五條 規則ニ...

(通運門) (鉄道規則及罰則)

○火藥類鐵道運送條規

明治五年五月第十四號公布鐵道規則第十六條（依り火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス）

第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ

第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ運送セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スルヘシ但兵員乘車ノ時其攜帶スル彈藥ハ此限ニアラス

第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金壹錢貳厘ト定ム但三千五百斤以下及二哩以上ノ距離モ本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四拾錢ヲ徵スヘシ

第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シテ書面ヲ四拾八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ受領スヘシ其證ナキトキハ之ヲ運送セサルヘシ

第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ

第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲スル時其補助等費ハ五ニ手渡シテ爲ス決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムルハ勿レ若シ輾轉セシムルトキハ必ず革布木綿等ヲ以テ其經過スル地比ヲ蔽フヘシ

第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シテ輾轉ヲ穿テ又ハ摺附木等ヲ覆火災ノ器具ヲ携テ又ハ吸烟ノ器ヲ許サズ

第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始メル時及之ヲ終ル時少時間ト雖モ猶豫スルヘカラス又其事ヲ預テサテ他人ノ其場ニ近クテ防カズ

第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着以前ルモ六時間以内ニ其受取方ヲ爲ス

第十條 此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一圓ニ付金貳圓ノ運送料ヲ徵スヘシ

第十一條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ヲ爲ス火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他種及古物ノ損害等勿論其他何等ノ事アルモ其責任セサルモノトス但鐵道局員以テ過失因テ起ルモノハ此限ニアラス

第十二條 火藥類ヲ運送シ委託スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證シテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

○第一百號布告

正印第四百十七號布告鐵道犯罪例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

第二條 鐵道橋ノ者鐵道上ニ關スル車務取扱中醉ニ乘ル無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アル事ハ其事情ニ依リ五百圓以内ノ罰金又ハ三月以内ノ徵役或ハ禁錮ニ處ス例中禁錮トアルヲ禁錮ト改ム

（通則）（火藥類鐵道運送條規）

第二條

規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄

第三條

規則第五條ノ禁ヲ犯ス者八十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條

規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル金貨ヲ沒收シ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第五條

規則第七條ヲ犯ス者ハ拂タル貨金ヲ沒收シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條

規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル貨金ヲ沒收シ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第七條

規則第九條ニ記セル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役

第八條

規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第九條

規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十條

規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

第十一條

規則第十七條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十二條

規則第十八條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十三條

規則第十九條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十四條

規則第二十條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十五條

規則第二十一條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十六條

規則第二十二條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十七條

規則第二十三條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十八條

規則第二十四條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第十九條

規則第二十五條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第二十條

規則第二十六條ニ記セル處ノ諸荷物品書共外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品

第二十一條

各組合營業人ニハ規約書ヲ設ケテ認可ノ上農商務省ニ届出ツヘシ

(通運門)

(鐵道犯刑例)

(驛傳營業組合規則)

1111111

レムルコトアルヘシ

但シ其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追徴スヘシ

○驛傳營業組合準則 (農商務內務兩省第三十五號)

明治八年五月三十日陸運會社解社以後驛傳取締上一定ノ規則不相立候處旅行ノ不便運輸ノ

不利不少候ニ付今般左ニ驛傳營業取締規則相示候條右準則ニ基キ驛傳營業取締規則取敢ケ

農商務卿へ届出ツヘシ此旨相達候事

但該取締規則取敢ケテ要セスト認ムルトキハ其事由詳細申出ツヘシ

驛傳營業取締準則

第一條 驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人(陸運受買人馬傭立及旅人)ヲ便宜分割シ

テ其組合ヲ爲サシムヘシ但驛ニ據ル能ハサルモノハ別ニ其組合ト爲サテ得ヘシ

第二條 驛ニハ組合營業人ヲシテ驛傳取締所ヲ設立セシムヘシ但驛ニ據ラサル場合ニ於テ

ハ驛外ノ地ニ設立セシムヘシ

第三條 驛傳取締所ハ驛傳營業ノ取締ヲナシ又驛傳營業ヲ兼ヌルヲ得ヘシ

第四條 驛傳營業人組合ニハ驛傳取締人ヲ置カシムヘシ

第五條 驛傳取締人ハ其組合及驛傳取締所ノ事務ヲ管理スヘキモノトス

第六條 驛傳取締人定員撰舉方法及事務條項ハ管轄廳ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ

第七條 各組合營業人ニハ規約書ヲ設ケテ認可ノ上農商務省ニ届出ツヘシ

第八條 組合營業人規約書ニハ左ノ諸項ヲ詳記セシムヘシ

一 諸貨鑑定額

一 驛傳取締所及組合費用並ニ驛傳取締人手當等收支方法

一 驛傳取締及組合事務條項

一 前諸項ノ外營業上必要ノ件

第九條 驛傳營業人組合驛傳取締所ノ費用并ニ驛傳取締人ノ手當等ハ組合營業人ニ負擔セシムルヲ得ヘシ

第十條 驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ到リ營業スルキハ其地組合規則ニ從ハシムヘシ

第十一條 驛傳營業人ニ非サル者ニハ貨錢若クハ手數料ヲ受テ驛傳業ヲ爲サシムヘカラス

第十二條 此準則ニ據テ定ムル驛傳營業取締事務條項ノ外各種驛傳營業人取締細則ヲ設クヘシ

第十三條 此準則ニ基キ警視總監府知事縣令ニ於テ取設ケタル取締規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰スルノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スヘシ

○西洋形船規則(明治三年正月)

西洋形船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

(別冊)

西洋形船規則

西洋形船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除ノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形船ニ至迄總テ民部省中通商司ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形船所持ノモノ或ハ新規買求候モノハ「民部省」外務省連印ノ免許狀可申請尤別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心得候一體日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命荷物等ノ損傷不少諸リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙ノ通御規則御取極相成候儀ニ付津々浦々於テ此旨屹度可相守候事十三年第十號布告ヲ以テ(西洋形商船)ト改メ以下之ニ依テ改ム免狀案十二年第十九號布告ヲ以テ改正ニ付除ク

規則

西洋形船買入度者ハ其旨開港場運上所へ可願出其上船ノ善惡新古檢閱ノ上免許差遣可申事

一 御國旗之事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬ノ艀舟ニ至迄必可揚置事

一 每朝西洋時規第八字ニ引揚ケ夕方ハ日沒迄ヲ限引卸スヘキ事

一 但行御國旗引揚無之節ハ海賊船ノ取扱請候テモ申譯ナキ事萬國普通ノ公法タル事

一 御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事

(通門) (西洋形船規則)

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝ノ節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日祝節改正ニ付
左ノ項ヲ別ル

一御軍艦へ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降致禮義ヲナスヘキ事

一夜間ハ旗章ト引替ニ燈明可引揚燈明ハ青赤白ノ三坐ヲ設ケ航海中赤ハ左舷青ハ右舷ニ點
火シ白ハ前櫓頂遠方ヨリ見留易キ所ニ揚燈燈明消ヘサル様可致事

一船ノ込合タル節並風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突當ラザル様可致右ハ日本船アリ共
同様ナレトモ外國船ハ別テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スヘシ

一貿易港碇泊中荷物陸揚船積共運上所へ願立免許狀ヲ受出入可致事
但手數銀差出ニ不及候事

一貿易港於テ荷物ノ取引致シ候ハ、其旨「通商司」へ可相届事

一航海中ハ兼テ帳面用意致置開港場ハ不及申諸湊へ入津ノ節ハ十二時西洋ノ二ノ間ニ其所
ノ運上所又ハ港役所へ届出檢印可請出帆ノ節同斷ノ事八年第四十號布告以テ次ノ十項ヲ廢ス
右檢印ノ式如左

何船
向月何日入港

何船何港
何月何日

何港	運上所
又ハ	
何港	役所

出帆	何港	運上所
又ハ		
何港	役所	

右出入檢印請候節手數銀相納ルニ不及事

一西洋形船並在來日本商船トモ積荷ノ總品物ノ名並其送り先ヲ認「通商司」並運上所へ可寄
出尤其港ヨリ陸揚又ハ船積スヘキ品物ハ一々相届可申事

一諸港へ着船ノ節港役人船政ノタメ出張致引續キ爲取締乘組居候事
但船中於テ聊ノ品タリ共仕向ケ間敷儀一切不相成事

一船中乘組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地へ相當ノ葬禮可取行事

一大砲小銃玉藥類ハ積込陸揚トモ其港運上所或ハ役所ノ免許ヲ乞フヘキ事
一海賊防禦其外ノ用意ノタメ相當ノ銃器備置候儀ハ苦シカラス尤兼而挺數等ノ免許狀「兵
部省ヨリ」請取置ヘキ事

一滯船入費ハ一噸ニ付一日金二朱ト被定置候間商賣向ハ勿論假令官府ノ御用タリ共船ノ進
退自由ヲ得ス雜費相掛リ候節ハ其價右ノ噸數ヨリ割出テ取立候事不苦候事

(通運門) (西洋形船規則)

但諸港於テ威權ヲ間敷振舞及ヒ無故出帆差留候節ハ右ノ儀可申立事

一免許ナシ外國へ通船ノ儀不相成候節一相犯スル於テハ船並荷物共取上屹度御咎可有之事

一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役儀不苦候事
但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添其所ノ役所へ相届官許ノ證據
差出可申事

一困難ト見請候船ハ内外國人ノ差別ナシ救助致シ可遣事
但外國人ハ開港場ノ役所へ可引渡尤右ニ付入費等有之節ハ開港場運上所ヨリ相當御下
ケ金有之ヘキ事

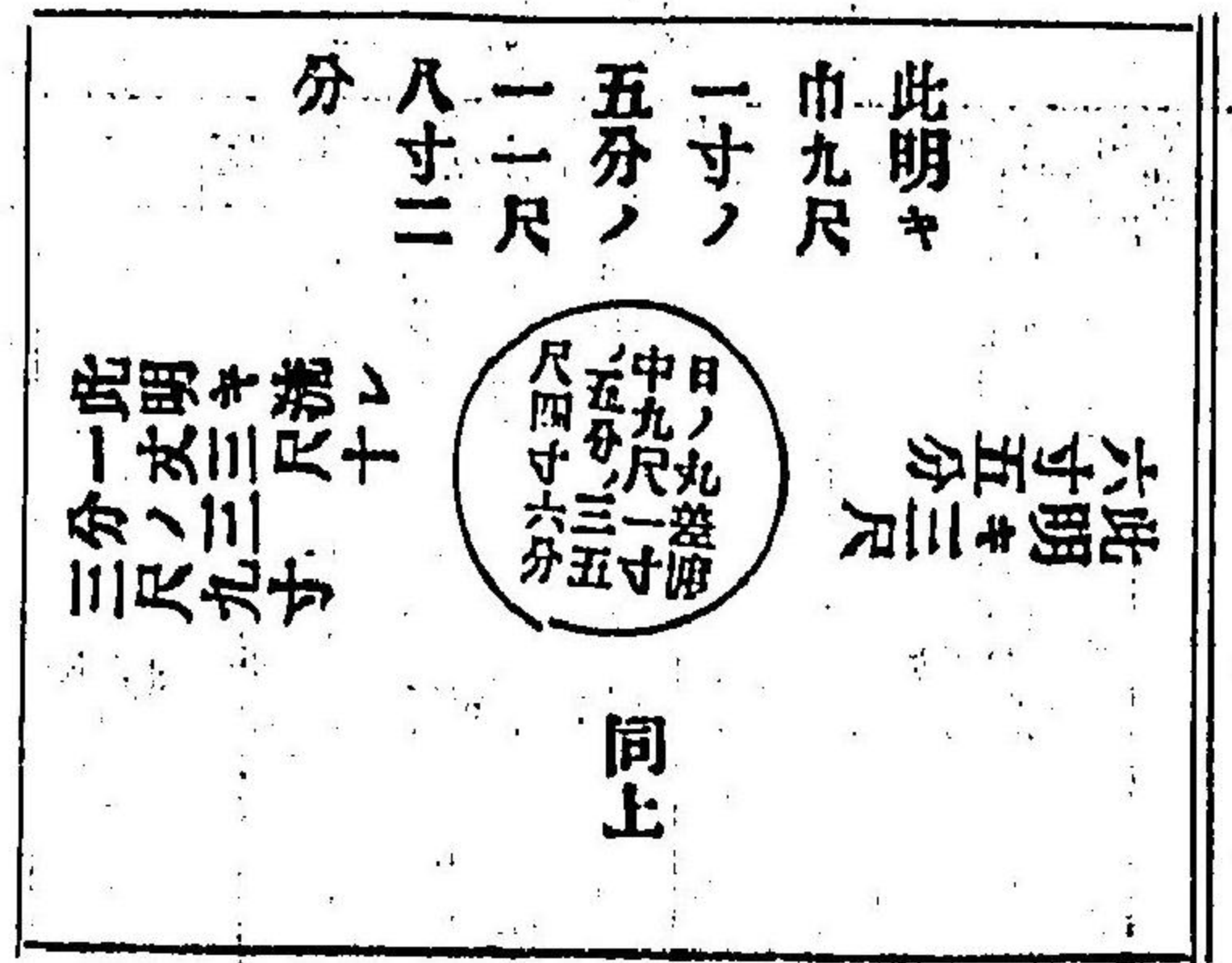
一外國人へ貸遣候節ハ約定書ヲ以テ「通商司」へ届出候得ハ直ニ運上所へ掛合ノ上其國々旗
章引揚候節御差許可相成候事

一外國人ト申合近海ニ於テ密商致シ候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背候儀取計候節ハ其船取
揚屹度御咎可有之事

一商船ノ記號ハ別紙圖面ノ通製造致シ御國旗同様可取扱事
列紙ハ之ヲ除ク又十六年第十三號布告ヲ以テ
船稅規則發行ニ付次項ハ但書共消滅ス

右ノ通相定候條嚴重ニ可相守事
祝日可用分
大旗之圖
凡テ曲尺

凡テ曲尺



平常可用分

中旗寸法

流一丈
堅七尺
日ノ丸差渡四尺二寸

同先ノ明キ三尺

風雨ノ節可用分
同乳ノ方明キ二尺八寸

小旗寸法

流六尺
堅四尺二寸

日ノ丸差渡二尺五寸二分

同先ノ明キ一尺八寸

同乳ノ方明キ一尺六寸八分

○航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀ヲ改正ス(明治十二年五月十五日)

明治七年八月第八拾八號布告航海公證規則ヲ廢明治三年正月二十七日布告中西洋形船免狀別
紙ノ通改正候條此旨布告候事(第十三號布告ヲ以西洋形商船)ト改ム

(通運門)

(航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀ヲ改正ス)

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

○西洋形船免狀請願手續ヲ定ム (明治十二年五月二十一日 內務省丙第廿五號沿海府縣へ達)

第十九號ヲ以テ西洋形商船免狀改正公布相成候ニ付自今其免狀ヲ請願スル者ハ其願書ニ左記ノ件名書相添出願可致且從前ノ免狀所持ノ者モ同様ノ手續ヲ以テ免狀書換出願爲致候備ト可相心得此旨相達候事

- 一 船名 數字ヲ以テスルモノ
- 一 信號符號 外國人ヨリ買受ケタル
- 一 一定發港 何府縣何港
- 一 一本船管轄廳名 何府縣
- 一 船ノ種類 蒸氣又帆
- 一 甲板ノ層數 何層
- 一 船體ノ材料 鐵又木
- 一 櫓ノ數 何
- 一 船骨ノ材料 鐵又木
- 一 網具ノ裝置 スクル、ブリツク、

- 一 船尾ノ形狀 方形又圓形
- 一 製造地名 何國何所
- 一 製造年月 何年何月
- 一 造船工長ノ氏名 何國何所
- 一 船ノ原名 最初製造シタルノ名
- 一 舊船免狀ノ番號 外國人ヨリ買受ケタル
- 一 船主若クハ會社ノ名 船主ハ二人以上ナルモ其總代一人ノ名及ヒ其本質
- 一 壹箇年ノ船稅 何

- 一 量噸甲板上最大ノ長 何尺
- 一 內法リ最大ノ幅 何尺
- 一 船室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ內板ニ至ル深 何尺
- 一 量噸甲板下部ノ噸數 何
- 一 量噸甲板上諸部ノ噸數 (若シアレハ) 即チ
- 一 甲板間ノ場所 何噸 ○三層以上ノ船ニ於テハ上甲板ト量噸甲板ノ間ノ場所
- 一 船尾室 何噸 ○上甲板ニ於ケル船尾ノ
- 一 圓室 何噸 ○上甲板中央線(船首ヨリ船尾ニ至ル中央線)若クハ中央線ノ近傍ニ設ケルモノニシテ外國ヲ回歩シ得ルモノ

(通達門) (西洋形船免狀請願手續ヲ定ム)

其他ノ場所(若シテ) 上甲板ニ於ケル船倉、積室、厨室、浴室等ノ如ク上ニ揚ケサルモノ

内除去スヘキ噸數

機關室ノ噸數何噸

乗組人常用室ノ噸數何噸

一登簿噸數 何噸 ○ 船倉ニ於テハ機關室ノ噸數及ヒ乗組人常用室ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除去シ其殘數ヲ以テ登簿噸數トナス

一機關ノ噸數 一箇又 一箇ノ肘手ニ因リ車軸ヲ運轉スモノヲ一箇ノ機關ト稱シ二箇ノ肘手ニ因リ車軸ヲ運轉スモノヲ二箇ノ機關ト稱ス以下之ニ準ス

一公稱馬力何馬力

○船舶積量測度規則(明治十七年四月廿四日)

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 凡ソ船舶ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス

第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ル

第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條 西洋形船ニシテ甲板二層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若シハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板トノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セシ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ船舷端以上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條 漁船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乗組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條 乗組人常用室トシテ除クヘキ噸數ノ百分ノ六トス

第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車漚船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七
暗車漚船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二
機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車漚船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車漚船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條 日本形回漚船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漚船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

(通運門) (船舶積量測度方法)

第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ右達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○船舶積量測度方法(明治十七年四月二日)

今般第拾號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム
右布達候事

(別紙)

第一條 西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 量噸甲板ノ上ニテ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準
ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及終尾船梁ノ矢ヲ加ヘテ三分ノ一下ニテ船尾
ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減メ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ

第一級 量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個

第二級 同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個

第三級 同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個

第四級 同百八十尺以上二百二十尺迄ノ船ハ十個

第五級 同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ上面
ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板下ノ

深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各
深ヲ等分ニスヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニテ船内ノ幅ヲ測定スヘシ

各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル
幅上下兩端ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘
其得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ
當ル面積兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間
隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量噸甲板下ノ噸數トス

第二項 最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中央
ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均
ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項 甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルコトハ甲板間ノ平
均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸
甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ
之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ト當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船
首船尾ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其

(逆運門) (船積量測度方法)

得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條 機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數トス

第二項 機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項 暗車室ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條 甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船首上端ノ内側ヨリ船尾上端ノ内側ニ至ル長ヲ測リ其他第一條第一項ニ掲ケル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他第一條第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項 船舷上端ノ境線ヲ超ユ船室ノ酸アルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條 日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
第一項 船舷ノ上端ノ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ内側ヨリ内側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長

幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項 船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

第五條 日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石數トス

○汽船公稱馬力算定方法ヲ定ム (明治十七年五月二十二日)

汽船公稱馬力算定方法左之通相定候此旨相達候事

第一 冷氣器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ海筒吸鑄ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ十個ニテ除シタルモノ

但海筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第二 冷氣器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ海筒吸鑄ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三

(通運門)

(汽船公稱馬力算定方法)

拾箇ニテ除シタルモノ

二五〇

但瀛筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎コ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第三冷瀛器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀛筒吸錫ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自
乘シテ相加ヘ其得數ヲ拾箇ニテ除シタルモノ

但瀛筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
第四冷瀛器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各瀛筒吸錫ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘
シテ相加ヘ其得數ヲ三拾箇ニテ除シタルモノ
但瀛筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎コ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

○西洋形船舶検査規則（明治十七年十二月二十二日）

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

（別冊）

- 第一條 西洋形船舶（海軍艦船ヲ除ク）ハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘレ
但登簿船舶免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス
- 第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム
- 第三條 検査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ヘシ
- 第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願

出ヘシ

第五條 登簿船舶免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命

ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ

記載シテ検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
- 一 船名
- 一 船主氏名
- 一 定艀場名
- 一 登簿噸數
- 一 端船其他必要ノ所屬品
- 一 航行レ得ヘキ場所ノ定限
- 一 證書有効期限
- 一 瀛船ニハ左ノ事項ヲ加フ
 - 一 公稱馬力
 - 一 瀛機ノ種類

（通則四）（西洋形船舶検査規則）

二五二

一 漏網ノ種類

一 最大漏網

一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出帆ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定弊場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船體若クハ漏網漏網其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條 船舶ノ検査ヲ受ケヌシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大漏網ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理

セシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 検査證書ニ記載セル漏網其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條 第拾壹條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料料ニ處ス

第二十一條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○船籍

○船舶検査規則施行手續及船舶検査細則ヲ廢ス (十九年四月八日逕信省令第五號北海道廳府縣) 明治十八年四月農商務省第十五號逕自令廢止ス

○西洋形船舶検査細則ヲ定ム (十九年四月八日逕信省令第四號)

西洋形船舶検査細則左ノ通之ヲ定ム

(逕運門)

(西洋形船舶検査規則) (西洋形船舶検査規則)

- 第一條 西洋形船舶検査規則ニ依リ検査ヲ受ケル船舶ハ此細則ニ據ルヘシ
- 第二條 検査規則第三條及第五條ニ掲クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直テニ司檢所(不登簿船ハ其地方廳)ニ差出レ検査ヲ受ケルヘシ
- 第三條 検査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ其船籍地方廳ヲ經テ豫シメ遞信省ニ差出シ検査官吏ノ派出ヲ俟テ便宜其検査ヲ受ケルヘシ
- 第四條 検査ヲ受ケ検査証書ヲ受領セサル以前ニ於テ本船ヲ運航セントスルハ其船主若クハ船長ヨリ検査官吏ニ請フテ第二號書式ノ假證書ヲ受クルコトヲ得但假證書ノ効用ハ三箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限内本證書ト交換スヘシ
- 第五條 遞信省若クハ地方廳ハ第三號書式ノ検査證書ヲ作り登簿船ハ司檢所ヲ經由シ不登簿船ハ司檢所ヲ經由シ不登簿船ハ便宜之ヲ船主若クハ船長ニ下渡スヘシ但検査規則第四條ニ掲クル船舶ニハ其地方廳ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ
- 第六條 検査規則第七條ニ掲クル航路ノ定限ハ左ノ四項ニ區分ス
 - 第一 外國航船 外國諸港ニ航通スルモノ
 - 第二 內國航船 內國諸港ニ航通スルモノ但朝鮮國南界ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル沿岸及ヒ薩俄噠諸港ニ航ス
 - 第三 近海航船內國沿岸ノ近港及ヒ内地ト離隔ノ間ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

- 第四 平水航船 湖川及ヒ靜穩ノ海上ヲ限リ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ
- 第七條 左ノ場合ニ限リ航路定限外ヲ航行スルモ妨ケナシ
 - 第一 航路定限外ノ地ニ於テ製造若クハ購求シタル船舶検査ヲ經タルト否トヲ問ハス其航路定限内ノ地或ハ最寄司檢所其他検査ヲ受ヘキ場所迄航行スルモノ
 - 第二 航路定限内ニ検査ヲ受ケヘキ一定ノ場所ナキカ爲メ特ニ最寄司檢所其他検査ヲ受ケヘキ場所迄航行スルモノ
 - 第三 航路定限内ニ於テ船體若クハ蒸機汽鐘其他要部ヲ修繕スヘキ場所ナク爲メ最寄工場所在地迄航行スルモノ
- 第八條 船内旅客ノ定員ハ寢床ノ數ヲ以テ定ム尤モ雜居室ノ定員ハ左項ニ據ルヘシ但多數ノ兵卒若クハ移住民人夫等ヲ搭載シ航通スルモノ及ヒ河川渡舟ノ如キハ旅客定員ノ限ニテアラズ
- 第一 外國航路ハ一坪^六尺^四方^六寸^六分^六厘^六毫^六絲^六忽^六微^六塵^六渺^六漠^六莽^六蒼^六茫^六下等三人但內國ヲ限リ航通スルモノハ內國航船ノ旅客定員ニ據ルヲ得
- 第二 內國航船ハ一坪^六尺^四方^六寸^六分^六厘^六毫^六絲^六忽^六微^六塵^六渺^六漠^六莽^六蒼^六茫^六上^六等^六二人中等三人下^六等^六四人
- 第三 近國航路及ヒ平水航路ハ一坪^六尺^四方^六寸^六分^六厘^六毫^六絲^六忽^六微^六塵^六渺^六漠^六莽^六蒼^六茫^六上^六等^六四人中等五人下^六等^六六人但航通ノ途次他ニ寄港スルト否トヲ問ハス六時間以内ニ仕向港^最終ニ到達シ得ヘキモノハ定員ノ外一坪^六尺^四方^六寸^六分^六厘^六毫^六絲^六忽^六微^六塵^六渺^六漠^六莽^六蒼^六茫^六上^六等^六一人下^六等^六二人マテ増加スルヲ得

(通運門) (西洋形船舶検査規則)

第四 湖川ヲ限り航通スル船舶ノ下等旅客ハ場合ニヨリ一坪六尺十人迄ニ増加スルヲ得

第九條 登簿噸數五百噸以上ノ船舶ニシテ船體瀛機ノ外國航通ニ堪ヘサルモノヲ除クノ外ハ其外國ニ航スルト否トテ問ハヌ都テ外國航船トシテ検査ヲ受クヘシ

第十條 登簿免狀ヲ受有スル船舶ハ臨時検査ヲ除クノ外前回検査ヲ受ケタル司檢所(検査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其地方廳へ次回ノ検査ヲ願出ヘシ)

但共航路ヲ變スル等ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十一條 検査規則第十三條ニ掲クル船舶ハ最寄司檢所(不登簿船ハ其地方廳)ニ願出テ検査ヲ受クヘシ

第十二條 船主ノ都合ニ依リ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルモ其旨ヲ前回検査ヲ受ケタル司檢所検査規則第四條ニ掲クル船舶ハ管船局ニ又不登簿船ハ其地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 検査執行ノ船舶免狀及ヒ乗組員技術免狀ヲ合セテ検査官吏ノ檢閱ニ供スヘシ

第十四條 定時臨時ニ拘ハラス修繕等ノ爲メ運航ヲ差止メタルモハ検査官吏ニ於テ本船現存ノ検査証書ヲ引上置クヘシ

第十五條 検査規則第十一條第十二條第十四條ノ場合ニ於テ船主若クハ船長ヨリ共事由外詳記シタル書面ヲ前回検査ヲ受ケタル司檢所(下登簿船及検査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其地方廳)ニ差出スヘシ

第十六條 船舶検査ノ方法及ヒ細目ハ管船局發行ノ検査手續書ニ據ルヘシ

第一號書式

船舶何丸第何丸第何回御検査願

本船船主宿所氏名若クハ會社名其所在地 一 總噸數及登簿噸數

定置場 一 本船製造年月日及ヒ場所 一 船體材料

網具ノ裝置 一 公稱馬力 一 推進器ノ種類

航路定期 一 前期検査ノ場所(第一回ノ願書ニハ之ヲ除ク)

前期検査證書有効期限(前ニ同シ) 一 前回本船入渠検査年月日

前回瀛鏽水試驗年月日

右ノ船舶(當時何地ニ碇泊若クハ入渠中ニ付御検査被成下度)(何地ヨリ何地ノ間ヲ航通司檢所々在地ニ回航不仕候ニ付何地ニ於テ御検査奉願度候間此旨遞信省へ御上申被下度)此

段奉願候也

船主若クハ船長

明治 年 月 日 何 某

現住所

司檢所 宛

地方廳

第二號書式

(通運門) (西洋形船舶検査細則)

船檢査證書

種別	汽機	船名	航路	定航	期限	船主	噸數	檢査地	旅客定員			船主姓名	噸數	檢査地	
									上等	中等	下等				

右ノ船檢査ノ上本書期限中記載之航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船檢査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スルモノ也

明治 年 月 日

地方官 借 名 印

(通運門)

(西洋形船檢査規則)

船檢査假證書

種別	汽機	船名	航路	定航	期限	船主	噸數	檢査地	旅客定員			船主姓名	噸數	檢査地
									上等	中等	下等			

右ノ船檢査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以テ此檢査假證書ヲ附與スル者也
但シ此假證書ハ明治 年 月 日ヲ限リ無効タルヘシ

官 姓 名 印

(二名以上ノ檢査ニ係ル
ハハ排替スルモノトス)

第三號書式

○東京外三所船舶検査所及大坂海員試験所改稱并取扱事務(十九年三月十日)

東京大坂函館神戸船舶検査所及大坂海員試験所ヲ司檢所ト改稱ス
前記司檢所ニ於テ取扱フ所ノ事務ハ左ノ如シ

- 東京司檢所ニ於テハ
 - 一 海員技術試験
 - 一 船舶検査
 - 一 水先人試験
- 大坂及函館司檢所ニ於テハ
 - 一 海員技術試験
 - 一 船舶検査
 - 一 水先人試験
- 神戸司檢所ニ於テハ
 - 一 船舶検査
 - 一 水先人試験

●行衛不分明ナル船舶除籍ノ件ニ付東京府同十九年六月十六日(十九年六月十六日官報)

行衛不分明ナル船舶有之破船ト看認タル者届出ルルハ直ニ船籍ヲ削除致シ又單ニ行衛不分明ト届出有之ハ明治十六年大藏省第五十九號達但書ニ準シ滿三箇年經過シタル後除籍致來候處自今兩様共届出有之ハ管内告示及府縣公報ノ手續ヲナシ該船出港後滿三箇年ヲ經過シ尚行衛不分明ナルトハ其船籍ヲ削除致シ可然哉
指令 十九年六月十四日
同ノ趣被船ト看認タルモノハ直チニ其船籍ヲ除去シ其他何ノ趣
但船免狀ヲ有セル船舶ハ最後出船ノ日ヨリ一箇年ヲ經過シタルトハ其旨當省へ届出ヘシ

○西洋形船海員雇入雇止規則(第九號布告 十二年二月十九日)

西洋形船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事(十二年二月十九日)
布告ヲ以テ西洋形商船(西
洋形船)ト改ム以下皆同シ

第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ヨリ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入証書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ(明治十四年第五十三號布告ヲ以テ(内務省)以下皆同シ)

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ
第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レド外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止証書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ク之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ(同)
雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ検査ニ供シ且其検査證書ヲ申受ヘシ(明治十六年第四十五號布告ヲ以テ)
雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ貳名以上ノ保證人ト連署シテ當初

(通運門) (行衛不分明ナル船舶除籍ノ件ニ付東京府同(西洋形船海員雇入止規則) 一二六一

公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ
第五條 雇止ハ雇入地ニ限り行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限内ト見做スヲ得ヘシ

但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限りニアラス

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

- 一 疾病又ハ體質衰弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者
- 一 本船離破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地ニ歸還セシムヘシ

一 第十條ニ掲グル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者

一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

- 一 苛虐ノ取扱ヲ受ケレ時
- 一 飲食物又ハ給金ノ金額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地ニ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新クニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリレ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スレテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者

(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯メ者ハ毎回其給金三分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上グルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日内ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

○海員雇入雇止事務取扱手續ヲ定ム

(農商務省第九號 明治十七年三月三十一日)

客歲十二月第四十五號布告ヲ以明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則第四條

(通運門) (西洋形船海員雇入雇止規則)

三項追加相成候ニ就テ右事務取扱手續在之通相定候條此旨相違候事

第一條 雇入ノ公認ヲ與ルニ際シ浦役人ハ左項ニ注意スヘシ

第一 船長運轉手、機關手、技術免狀ノ有無ヲ檢問スル

第二 被雇者ニ於テ最後ノ雇止證書ヲ所持スルヤ否ヲ推問スル

第三 被雇者ヲシテ雇入定約ノ旨趣ヲ了解セタルヤ否ヲ推問スル

第二條 浦役人ハ船長、運轉手、機關手、技術免狀ヲ檢査シ真正ノ者ト認ムルハ農商務省ヨリ發行シタル技術免狀檢査證書ニ該免狀ノ種類及船名、定置港名等ヲ記シ之ヲ交付ヘス

第三條 浦役人ハ被雇者ヨリ最後雇止證書ヲ出キシメ其證書裏面ヘ何年月日何港ニ於テ更ニ何船ヘ雇入トナリタル旨ヲ記入シ且之ニ印スヘシ但新ニ海員トナリ最後雇止證書所持セサルモノハ此限ニアラス

第四條 被雇者中定約ノ旨趣ヲ了解セサルモノアレハ浦役人ニ於テ或ハ之ヲ讀聞セ或ハ解釋シテ充分了解セシムヘシ

第五條 新クニ海員トナル者ニ雇入ノ公認ヲ與メタルハ其族籍氏名年齢ヲ本籍ノ戸長ニ照會シ從前海軍兵役ノ有無ヲ取調ヘ雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

第六條 雇入ノ時ハ勿論雇止ノ時ト雖モ其證書ノ寫ヲ浦役場ニ保存スヘシ且雇入雇止事務繁劇ノ場所ニ於テ更ニ海員名簿ヲ備置雇者被雇者ノ住所、氏名、乘組船名等ヲ記入シ

第七條 雇止ノ公認ヲ爲ス時ハ前定約面ニ相違ニ有無ヲ取調シ若シ當初雇入ノ定約面ニ相違ノ廉有之キハ船内日記簿其他ノ書類ニ據リ雇者ヨリ其實情ヲ證明セシメ海員名簿ニ其旨ヲ記入シ而シテ之ヲ公認ヲ與フヘシ

第八條 甲地浦役場ニ於テ雇入ノ公認ヲナシタルモノチ乙地浦役場ニ於テ雇止ノ公認ヲ爲シタル時ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ甲地浦役場ヘ通知スルモノチ月以内ニ之ヲ通報スヘシ

第九條 雇入雇止證書中書損アルハ必ス正誤セシメ浦役人之ニ認印スヘシ若シ書損甚シク字句不分明ナルハ更ニ新明セシムヘシ

第十條 雇入期限内脱船又ハ死者アリシト届出タル時ハ雇入證書中事故摘要ノ部ヘ其事故ヲ記載シ尙ホ其證書ノ寫若クハ海員名簿ニ之ヲ記入スヘシ

第十一條 雇入證書ハ假令七餘白アリト雖モ再度之レヲ使用スルヲ許サス故ニ其餘白ハ總テ斜線ヲ畫シ以テ之ヲ廢止スルニ當リハ海員名簿ニ之ヲ記載スルニ當リハ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十二條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十三條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十四條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十五條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十六條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十七條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十八條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十九條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十一條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十二條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十三條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十四條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十五條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十六條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十七條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十八條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第二十九條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十一條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十二條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十三條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十四條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十五條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十六條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十七條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十八條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第三十九條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十一條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十二條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十三條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十四條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第四十五條 雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ヲ公認シ請ヒ申シタル時ハ規則ニ照レテ其事由ヲ明シテ之ヲ公認申與フ事但シ正副雇入證書及シ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

(通運門) (海員雇入雇止取扱手續)

合ニ於テハ滿期雇止リテ雇者變更ノ事由ヲ正副雇入證書若クハ海員名簿ニ記入スルニ由リ
第十五條 海技免狀ヲ受有スル者ハ海員雇入雇止證書職務欄内ニ免狀ノ種類及現ニ服務ノ
職名ヲ記シテ公認ヲ與フヘシ(明治十八年第七號省令)

○船船ヲ賣買シ又ハ書入質トナサントスル時ハ公證ヲ受シム(明治十年

八月八日) 船船ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年九月第百
四十八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定
證書ニ本船管轄地戸長ノ公證ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サザルニ於テハ其約定證書ハ裁
判上等常金穀貸借證書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲レタル分ハ常明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書
改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨據本船管轄
地戸長役所ニ届出シテハ人ノ不慮ニシテモ其旨據本船管轄地戸長ノ公證ヲ受クヘシ

○海上衝突豫防規則(明治十三年七月十六日)

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正ニ來九月廿一日ヨリ施行候條此旨布告
候事

(別冊)

總則 此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒ時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フ
ル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

第一條 此規則中蒸氣船ト雖モ帆ニテ走り蒸氣ヲ用ヒ時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フ
ル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラヌ第三條第四條第五條第六條第七條第八
條第九條第十條第十二條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘシ

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ(甲)前櫓又ハ其前面ニ於テ船體上ニ三丈ヨリ低カラサル所ニ
若シ船幅ニ丈ヲ超ル時ハ船體上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ
不同ナク光明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スルノ製造シ之ヲ左右舷外ニ十方位ヲ照
即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及ラセキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少
クモ五里(海里)ニテ算ス以下之ニ做ヘ)ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照
スヘシ製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及ラセキ樣ニ裝置シ且晴
天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照
スヘシ製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及ラセキ樣ニ裝置シ且晴
天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(四)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照
スヘシ製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及ラセキ樣ニ裝置シ且晴
天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(五)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照
スヘシ製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及ラセキ樣ニ裝置シ且晴
天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

スヘノ製造シ之ヲ船ノ正者ヨリ右舷正横後ノ二方位ニテ光線ヲ及フヘキ様ニ装置シ且晴
天ノ暗夜ニモ少クモ二里ノ距離ヨリ見エハキモソク用フヘシ

(丁)右舷紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ隔板ヲ共燈火ノ内側ニ當
テ、装置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見エス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見エサル様ニナ
スヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ何舷燈ノ外ニ高明ノ白燈三個ヲ三尺ヨリ少カラサ
ル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走シ蒸氣船ニ區別スヘシ此燈火ハ獨走シ蒸氣船ニ掲ケル白燈
ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ掲ケル

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別サノ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三
分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆出船ナレハ蒸氣船ニ掲ケル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナ
レハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜
ニ少ナクモ二里ノ距離ヨリ見エハキモソク用フヘシ又晝間ハ直徑三寸ノ黒球若クハ黒色
形象三個ヲ前橋ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦
ニ連掲スヘシ

海底電信線ノ布置又ハ引揚テ從事スル船ハ蒸氣船ト帆前船トノ差別ナク夜間ハ直徑八寸
三分ヨリ少カラサル球形燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ノ白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈
ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央

ニ白色トナシ其紅燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ前橋ノ前面
ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑三寸ノ球形燈三個ヲ大尺目鏡少カラサ
ル間ヲ隔テ縦ニ連掲シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個ハ白色縱菱形ヲ用フ

本條ノ燒火及形象ヲ掲ケル船ハ運用自由ヲ得スレバ他船ノ航路ヲ避ケル能ハサルヲ標ス
ルモ、他船ト於テ心掛クテ但危難ニ罹ル救助ヲ要スル船ハ第二十七號ニ離船信號ヲ用
フヘシ

第六條 帆前船ト自ラ走ル他船ト引テ航行スル時ハ何舷燈ノ外ニ第三條ニ記載ス
ル汽船ノ舷燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ掲ケル

第七條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第八條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第九條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第十條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第十一條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第十二條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

第十三條 汽船ト帆船ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナルモ、帆船
ハ左舷ト右舷ト於テ天氣ノ快慢ニ依リ白燈ト紅燈トノ懸置ニ異ナラズ

(通運門) (海上衝突豫防規則)

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船體上ヨリ二丈チ超ヘサ
ル所ト白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常
不同ナル最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周圍一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケテ唯船頭
ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ムサハ間歇ヲ以テ閃光一個
又ハ數個ヲ發スヘシ

第十條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケテ且
ハ然レバ舷燈ヲ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘ該燈籠一個ヲ手
近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行ク時ハ衝突ヲ防クニ充
分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷道ヨリ見ユル紅光ハ右舷ヨリ

見ユル様ニ注意スヘシ
右舷船及ヒ小船碇泊シテハ或ハ潮ヲ卸セザル時ハ亮明トシテ白燈一個ヲ標スルモ且便宜
ニ從ヒ度々閃光ヲ發シ又晝夜ニ拘ハラズ霧中號角ヲ用フルモ苦シカラズ(閃光ヲ下ノ發ス
ルモ持シカラズトアルヲ發シ)

第十一條 他船ニ追越サレシムル時ハ前船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發ス
又晝夜ニ拘ハラズ(閃光ヲ下ノ發スルモ持シカラズトアルヲ發シ)

第十二條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十三條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十四條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十五條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十六條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十七條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十八條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

第十九條 霧中信號無誤ニテ船體ノ前後ノ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ且ハ霧中信號ニ注意シ

(通則四) (海上衝突豫防規則)

(丙) 一杯の明カサレ二艘の船風ヲ受ケル舷方同カタル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クベシ

(丁) 一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受ケル舷方同レキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クベシ

(戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クベシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行達フ時衝突シ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スベシ

本條ニ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行達フ時衝突ノ懼アル時ニ限り應用スヘク各其鐵路ヲ探チテ必ク替リ行時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スニ至當ノ場合ハ兩船共正シク真向又ハ殆ト真向ニ行達ヒタル時即チ一盞間ハ我船ヲ離シ他船ノ橋トニ直線又ハ殆トニ直線見ユル時夜間ハ互ニ他船ヲ兩舷ニ燈ヲ一時ニ見ユル時ニ限リ

本條ハ晝間他船ヲ我鐵路ニ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見ユル時又ハ我船ノ紅燈ヲ見ユル時又ハ我船ノ綠燈ヲ見ユル時又ハ我船ノ前面ヨリ他船ノ位置ニ見ユル時

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他

船ノ航路ヲ避クベシ

第十七條 帆前船ヲ蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クベシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ヒシ又ハ時宜ク依テ停止シ且後退ス

第十九條 蒸氣船此規則ニ違フ鐵路ヲ取ル時ハ左列諸信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知ス

短燈一盞

短燈三盞

此信號ヲ用フカト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ク其信號通リテ其鐵路ヲ取ラサルカ

第二十條 帆前船ヲ蒸氣船ト互ニ別テ他船ヲ避越スル時ハ以テ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クベシ

第二十一條 總テ蒸氣船狭隘ノ水路ヲ通航スル時ハ當該難ニ通行得ル時其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當テ方ヲ航行スルベシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其

鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避ケルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張リ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ヲ怠リヨリ生レタル事件ニ於テハ船主船長乘組人員各其責ヲ免ル可カラサルモレトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地方官ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルル船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干渉セサルモノトス

難船信號

第二十七條 危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々ニ施行スヘシ

晝間信號

(一) 凡一分時毎ニ一砲發テナスコト

(二) 萬國船舶信號書ニ掲載スルNOノ難船信號又標スルコト

(三) 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似スル物ヲ掲ケル遠隔信號ヲ標スルコト

夜間信號

(一) 凡一分時間毎ニ一砲發テナスコト

(二) 船上ハ發揚スル燈火ノ類

(三) 各色各種ノ星火ヲ發揚スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、數分時毎ニ打揚クルコト

附則 西班牙國ノハリスカノ岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノ左ノ規則適用ニ付該地方航行諸般ニ於テ之ヲ心得ヘシ

(甲) 登簿噸數以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載シタル燈火ヲ掲ケルヲ要セサル時ハ他航行船ト同様ノ燈火ヲ掲ケヘシ

(乙) 流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見ユ易キ場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ掲ケ其燈大ノ縱距離ハ六尺以上十尺以下ヲ隔テ又橫距離ハ其船ノ龍骨ト平行線ニ最モ五尺以上十尺以下ヲ隔ツヘシ但此二個ノ燈ハ下ニ掲ケテ上ニ掲ケルモノヨリ前方ニ置

キ且晴天ノ暗夜ニ同回諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユキモノヲ用フヘシ

(丙) 釣絲ヲ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ流網ヲ以テ漁獵ニ從事スル船ト同一ノ燈火ヲ掲ケヘシ

(漁漁門)

(海上衝突豫防規則)

(丁) 漁獵ニ従事スル船其器具ノ岩礁其他碍物ニ回著セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同様ノ燈火及霧中信號器ヲ用テハ得ズ

(戊) 漁船及甲板ナキ小船等何時ニテモ本條ニ依リテ掲クヘキ燈火以外ニ閃光ヲ發スルハ若シカマラズ曳網起網其他曳網ノ類ニテ漁獵ニ従事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ總テ其船ノ後部ニ於テスルハ但曳網起網其他曳網ノ類ニテ船尾ニ際キテ其時之ヲ船首ニ於テ發スル此限ニ在ラス

(己) 漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日没ヨリ日出マテノ間少クモ同回諸方一里ノ距離ヨリ見エヘキ白燈ヲ掲クヘシ

(庚) 霧中又ハ降中ハ網ニ際キテ曳網起網其他曳網ノ類ニテ用ヒ漁獵ニ従事スル船及釣糸ヲ垂レ釣魚ニ従事スル船ハ二分時ヨリ多クワサル間歌ヲ以テ霧中號角ト號鐘トヲ送ヒテ曳網起網其他曳網ノ類ニテ船首ニ於テ發スル此限ニ在ラス

第二十八條 凡船各格ノ燈籠及信號器ヲ所持セズ若シハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ罰金ニ處ス

但甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

第十八條 第七號布告ヲ以テ

第七條 第七號布告ニ改ム

○海上衝突豫防規則ニ記載シタル燈籠及舷燈製造罰例 (明治十四年五月二十日)

明治十三年第七號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル燈籠及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○海上衝突豫防規則ニ記載シタル信號器中榴彈火箭信號器製造

方 (明治十四年六月二日)

明治十八年第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號器管及ヒ榴彈ハ逕信省ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

○海上衝突豫防規則中信號器制限 (十九年六月二日)

海上衝突豫防規則中ニ掲ケル信號器ハ左ノ制限ニ從ヒ各船舶ニ備ヘ置クヘシ

但解船及甲板ナキ諸船并河川ヲ限リ航行スル諸船ハ此限ニアラス

- 一 外國航船 一 砲
- 一 本砲二門若シハ一門 裝藥十二箇以上
- 一 但離船信號器彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該離船十二箇以上ヲ備
- 一 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭 十二箇以上
- 一 信號器管中榴彈或ハ火箭

(通運門) (海上衝突豫防規則)

一 機械製霧中號角或ハ尋常號角

一二七八

一 黑色球燈

一二箇以上

一 紅色球燈

三箇以上

一 號鐘

三箇

一 汽笛 (汽船)

一箇

一 萬國船舶信號旗

一箇以上

一 內國航船

一 柵

一 大砲一門若ハ二門

一 柵

一 但離船信號鐘彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該鐘彈六箇以上ヲ備フ

一 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭

六箇以上

一 信號燈管

六箇以上

一 機械製霧中號角或ハ尋常號角

六箇以上

一 黑色球

一箇

一 紅色球燈

三箇

一 號鐘

三箇

一 汽笛 (汽船)

三箇

一 萬國船舶信號旗

三箇

一 萬國船舶信號旗

一 柵

一 近海航船

一 柵

一 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭

六箇以上

一 信號燈管

六箇以上

一 黑色球

三箇以上

一 紅色球燈

三箇

但百海里以內ヲ航通スルモノハ前四項ノ信號器ヲ備フルヲ限ルヲナス

一 機械製霧中號角或ハ尋常號角

一箇

一 號鐘

一箇

一 汽笛 (汽船)

一箇

一 萬國船舶信號旗、N.O. (離船信號)

一 組

一 平水航船及不登簿帆船

一箇

一 機械製霧中號角或ハ尋常號角

一箇

一 號鐘

一箇

一 汽笛 (汽船)

一箇

一 日本形回漕船

一箇

五百石以上ノモノ

六箇以上

(通運門) (海上衝突豫防規則)

- 一 星火ヲ發スル火筒或ハ信號炮管
- 一 機械製霧中號角或ハ尋常號角
- 一 號鐘
- 一 萬國船舶信號旗ノMO (離船信號)
- 一 百石以上五百石未満ノモ
- 一 機械製霧中號角或ハ尋常號角
- 一 號鐘
- 一 六箇以上
- 一 箇
- 一 箇
- 一 組
- 一 箇
- 一 箇

○回漕貨物取扱條例第百八拾四号布告(明治八年二月四日)

今般廻漕貨物取扱條例左之通制定候條此旨布告候事

- 第一條 廻漕貨物ノ荷造地ハ濶沽減損或ハ漏脱等ノ難ヲ防シキ様願メテ堅固ニシ其品柄又ハ荷造ノ模様ヨリテハ錠鎖或ハ封印スヘシ
- 第二條 穀物鹽類等ノ俵物酒樽流液ノ樽物等總テ減損漏脱シ易キモノハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約定ヲナスヘシ
- 第三條 船主ハ荷造ヲ粗糲ナラシメ錠鎖或ハ封印ナキテ以テ第一條ノ難ヲ防キ難ゾト思惟スル時ハ貨主ニ其趣ヲ通知シタ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ托セラルハ其ハ特殊ノ約定ヲナスヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ

第四條 貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セズ又其約定ヲ爲サ、ルハ濶沽減損或ハ漏脱等ノ難ヲ運漕中ニ生スル用船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナラハシ

第五條 廻漕運賃ハ撥船ノ甲地ニ於テ波戶場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ受取ルキ適當ノ地ト定メタル場所ヨリ若シ船主ノ倉庫等ノ其貨物ヲ受取ルキ適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スルモノニシテ甲乙地ニ於テ其定メタル場所ノ外ニ取集及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及ヒ配達ヲモ船主ニ托スルハ貨主ハ廻漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及ヒ配達賃ハ拂ハサルヘカラス

第六條 前條乙地ニ若シ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スルキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルハ船主ハ其責ニ任セサルヘシ但其報告スヘキ日時ハ必ラス貨主ノ受取得ルキ適當ノ時間ヲ以テスヘシ若シ不適宜ノ時間ヲ以テスルハ之ヲ報告セサルト同般ト做スヘシ然レバ其危險損失ハ船主ノ責ニ免カルヘカラス

第七條 前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルハ船主ハ之ニ生スル危險損失ハ其責ニ任セスト雖且必ス危險損失ヲ生セサル様之ヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附カ或ハ雨覆等ヲ備テ其危險

(運送門) (廻漕貨物取扱條例)

ヲ保護ノ手立ヲナスヘシ然ルハ相當ノ倉敷料番人賃其他之ニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂
 ハレムヘシ

第八條 廻漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運航賃ナルニ因リ其全運航ヲ畢ヘシ
 ル間ハ貨主ハ之ヲ拂フコト拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシモ其
 全量中幾分ノ不足ヲ生スルモ貨主ハ其全運賃ヲ拂フコト拒ミ得ヘシ然レモ其全量幾百
 俵何千箇ヲ運送セシムルモ其一俵一箇ニ付運賃幾許ト約定セルモ其全量ノ如何ヲ問ハ
 ス之ヲ受取リタル俵數箇數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀
 ナキヲ以テ之ヲ受取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルモ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘ
 カラス

第九條 船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第
 二條ニ遵ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ證シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ
 事アルモ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

但海上離船ノ厄ニ罹ルモノハ危險受償法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シ此限ニテ
 第十條 運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レモ之ヲ乙地
 於テ受拂フ時其貨物ト引換テ以テスヘシ若シ貨物ヲ受リタル後其拂方ヲ怠ルモ船主ハ
 其受取ルヘキ貨物ニ對シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

外交門

第壹號

從來當省ヨリ發行候海外行免狀ノ儀海外旅券ト改稱別紙規則相定候條此旨布達候事

海外旅券規則

旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少ナカラサルヲ以テ外
 務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條 旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ開港場管關ヘ願出之ヲ受取ヘシ
 右郵便ヲ以テスルモ皆シカラス旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所ノ當人姓名ヲ自記スヘ
 シ

第二條 旅券ヲ受ケルモノハ手数料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ
 但旅券ハ一人一枚ニ限ヘシ若シ五歳以下ノ小兒其父母同道ナルモ其父母ノ旅券ニ附
 記スルヲ以テ足レトス

第三條 内地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國
 在留ノ日本公使館又ハ領事館ヘ其趣ヲ記載セル書面ヲ出ダシ自身出頭シテ願ヒ受ケヘシ
 但其手数料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第四條 公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ内地ニアリテハ其官廳ヨリ直ニ外務省

(外交門) (海外旅券規則)

掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣ニ從ヒ旅券ヲ受取ル

第五條 旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其國キヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ

但其定規ニ隨ヒ手数料ヲ拂フヘキモノトス

第六條 海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスルコトアリ其節ハ之ヲ請ヒ得

但領事官ナキ地ニ於テハ公使館ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條 旅券ハ歸朝ノ後三十日以内ニ其最初受取タル官廳ヘ之ヲ返納スヘシ郵船等ノ海員常ニ旅券ヲ返スル者ハ此限ニアラム

但海外ニアリテ我公使又ハ領事官ヨリ受取タル者ハ外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス

旅券願書式

私儀何々ノ爲メ某國へ罷起(或ハ往來致シ度ニ付)旅券御渡方奉願候也

明治拾年月日

何府(縣)下
何國何郡何町何番地(又ハ寄留)

上封式

姓 職業
何 姓 名 印
何年何月何年何ヶ月

右之通稱連之無儀也

外務省(又ハ何縣)御中

郡(區)戸長
姓 名 印

前書之通證明候也

縣知事縣令
姓 名 印

旅券願

外務省(或ハ某府(縣))
御 中

何府下何郡何町何番地
身分
何 誰

旅券書式 其一

官印

何府何國何郡何町何番地
族 籍

(外交門) (海外旅券規則)

右 何 某
年 齡

ニ趣クニ付通路故障ナク旅行セシム且必要ノ保護扶助ヲ與ヘ
ラレンコトヲ其筋ノ諸官ニ希望ス

日本皇帝陛下官位姓名自記

所持人 姓名 自記

(右ハ官員及官費留學生ニ與フル式ナリ)

同 其二

何縣何國何部何町何番地
族籍

何 某
年 齡

右ノ者故障ナク通行セシム且必要ノ保護扶助ヲ與ヘラレンコトヲ其筋ノ官

ニ希望ス

年月日

日本皇帝陛下官位姓名自記

(右華士族平民ニ與フル者ナリ共ニ英佛獨魯清文ヲ譯付ス)

第二號

本年二月二十日第一號達海外旅券規則第二條外務省又ハ開港場管廳ト掲載有之候處朝鮮
國へ旅行候者ニ限リ左ノ縣廳へ願出旅券受取候テ不苦候條此旨布達候事

廣島山口 瀨島根 福島 鹿兒島

長崎縣 嚴原支廳

○不開港場規則 (明治三年二月二十九日布告)

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻ノ通り被仰出候間此旨相達候事

別紙

外國貿易ノ儀ハ神奈川港ヲ初メ大阪兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣トモ
右場所ニ於テ取引可致處不開港場ニ於テ密商イダシ候哉ノ趣相聞ヘ以之外ノ事ニ候右ニ付
テハ先達ヲ御布令ノ趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々ニ於テ厚ク可相
心得筋ニハ候得共其津々浦々邊部ノ場所ニ至リ候テハ取計方不相辨モノモ可有之候ハ難船
救助ノ筋ト混入シ難船人へ對シ不親切ノ取扱ヒイダシ候テハ御交際上ニ差響キ候儀ニ付キ
夫以是以テ今般猶ホ又廉々別紙ノ通心辨方被仰出候儀ヲ府藩縣ニ於テ取締不行届共土民
ト外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候儀ハ假令ト共事不仕還候共當人并ニ其支配タルモノ
迄貶度御答可被仰付候尤モ吟味ノ上其土地管領ノ者同意致シ居候儀又ハ心得ナカク見遁シ

(外交門)

(不開港場規則)

候儀相知候節、猶更嚴重御成分可有之候、付向々於テ取締ノ儀猶一層行届候様致ス
 一外國人之儀、自己相對テ以テ雇入候儀不相成趣ハ兼テ御布令ノ通ニ候得共諸學科又ハ國
 地開發或ハ西洋形ノ船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニ依テ御開届可相成候間給料年
 限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以テ東京外務省ニ可願出其上御印章御渡可相成候尤モ御印章
 所持ハ外國人ハ何レノ向ニテモ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行ヒシムヘク
 候尤モ諸場所ニテ右御印章相改メ可申萬一御印章所持不致外國人有之節ハ御許容不相願
 私ニ雇入候節ニ付内地通行不相成候ハ勿論窃ニ隠シ置キ相願ルハ於テハ急度御沙汰ノ
 品モ可有之間心得違無之様可致事

追テ別紙條目ノ儀ハ外務省ニ摺モ、有之候間不足ノ向ハ何部ニテモ同省ニ申立可受取
 候事

條目

港場取締心得規則

一何レノ濱邊又ハ港浦ニ於テ西洋形ノ船々入津候儀ハ、時刻ヲ移サズ直儀港役人(役人ハ居合
 ノ内ヨリ)其船々係組入津ノ趣意可相尋候事
 一但言語不通ニテ十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津致候儀甚

少ク候其大憲案テ和語手裏似ニテ相分可申事

一尋問之上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求メ候ルハ入津之儀ニ候ハ其土地ヨリ横濱兵庫長崎
 新潟函館迄ノ里數ヲ勘辨イテ格別違路ニテ無之儀ハ有品々ヨリ前文開港場ノ内
 へ參リ可受取旨申サレバ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ
 候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當ノ分丈渡遣シ代
 金可受取事

但シ金高品數ハ勿論船碇泊ノ日數刻限等委細相認メ届出可申事

一其船ノ國名船名船主ノ名ハ書付ニテ承リ糺スヘキ事
 但シ船名ハ多ク船ハ艦ニ横文字ノ摺書ニテ有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗并ニ船主ノ旗等總テ目印ニ可相成モノハ其船形寫取可差出事

一缺乏ノ品相渡シ候上出帆遲々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候儀催促可致事

一御免許ノ上海岸測量ノ爲メ船ヲヨモ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ州有之場所等差示
 可遣尤モ御免許ノ船ハ其印狀必ス所持イダシ居候事

一軍艦ニ候ハ商船ニ候ハ蒸氣船風帆船共總テ船形大小トモ取糺相届可申候

一軍艦ニ候ハ、大砲ノ備有之商船トハ船形相違ニ付假令見カレサレモノニテモ相知ヒ可申

軍艦ノ別テ何事モ禮儀正シ不敬ノ取扱イダサル様可心掛候事

一薪水食料等船中必用ノ品ノ外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ、切賣渡儀

(外交門) (不明港場取締心得方規則)

事不相成萬一利慾ニ迷ヒ賣渡シ候モノ有之後日相顧ハルニ於テハ吟味ノ上屹度御答可有之事

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀一切不相成萬一船ニ取引イテ候節へ前同斷御答有之事

一濱邊ニ近キ村里ノモノ其内々外國人ト荷物ヲ取引致候様子ニ候ハ、其支配カ又ハ開港場へ可申立時宜ニヨリ御賞有之事

一難船ニ無之食料缺乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速ニ探索ノ上彌密商ノ候ニ相違無之候ハ、雙方トモ差シ押へ外國人ハ引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當ノ仕置ニイテ早々申立差圖可受尤モ横文字ノ書付類後日ノ證據ニ可相成品々始末イテ可置事

但シ各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參リ密商シ或ハ密商チ企テント命メテ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料ノキシコドルラニテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様ノ企致シ候モノ於有之ハ兼テ布告ノ通其品取上過料トシテ金干兩御取上ノ事

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居萬商一買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乘組御國人手引ニテ賣買致シ候様相見候ハ、篤下様子ヲ探察致シ嚴敷拒絕可致萬一仕遂候跡ニ候ハ、其事賣求上早々其筋へ可申立事申事

但シ本文西洋形商船ニ不限御國通例ノ地難船ニテ西洋人乘組居候節モ同様ノ事

一外國船ヲ御國人トシテ借り受開港場ヨリ開港場へ荷物運輸シ候ハ、願シ上御附届可相成筋ニ候得其不開港場へ決シテ御開届無之儀ニ付萬一不良ノ徒村民ヲ欺キ御免許ヲ受候ニ付賣買致シ度杯ト申唱へ候トモ一切差許申間敷事

但シ地方鐵儲等ニテ不得止事外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其筋ハ府藩縣ノ知事ヨリ沙汰可有之且乘組人ノ内開港場ノ役人取締ノ爲メ立合居候醫ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一淺へ碇泊致カス沖繫リ又ハ其近海ニ於テ双方ノ船出會致シ密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事

一不開港場へ外國船碇泊イテ薪水食料ノ賣渡候儀ニテ聊カ心障リノ事無之トモ其都度相届可申事

一難船救助ノ事

一難船ニテ困苦ノ体ニ相違無之節ハ其困苦ノ輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助可遣事

但シ船ニ乘組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院ナリ民家ナリ可然所へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事

一船ノ修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材ニテ用意致可遣事

一乘組人ノ内溺死ノ屍有之歟或ハ滯留中病死ノ者埋葬ノ儀申立候ハ、墓所内都合ヨキ場所

(外文問) (難船救助ノ事)

二二九二

一 埋葬可爲救事

二二九二

一 洋中ニタイテ大船破碎シ乗組人外國人ノ内宿ホ船具等ニ取付生殘リ居候体見當候ハ、早々我船へ助ケ載セ開港場へ送届候歟又ハ其土地支配ノ者受取海陸便宜ヲ見計ヒ開港場へ可送事

一 難船漂着候ハ、早々外務省カ又ハ開港場ノ内可成里數近キ所へ晝夜ヨリ不限注進ニ及ヒ其掛リ官吏ノ出張申立差圖可受事

一 難船致シ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添ノ者可成餘計ニ差出シ最寄ノ開港場へ可送届事

一 國難ノ船艦レ洲等ニ乗掛ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船主又ハ鐵具碇鎖等迄沈没ノマ、追々流失候トモ又ハ村方ニ取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文ノ書面取置テ

一 難破ノ船艦其マ、差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間難其外ノ船トモ預リ置キ候様外國人ヨリ相願候トモ容易ニ引受申聞敷彼方ヨリ難ニ申立候ハ、其筋内伺ノ上可引受テ勿論入費相掛ヘシ儀ニ付右賃錢受取候節ハ不及申跡々

一 船難ノ事不差越候事トモ書面可取置事
一 沿海地方於テ外國船困難ニ救助方ニ付出費ニ總テ其船主ノ屬シ相當ノ候得共船主ノ屬ニ於テ其筋内部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕

一 擲候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添へ管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫シ官費ヲ以テ探替置キ船主滯留中ナラハ其返船主へ心得置セ若シ船主其他乗込ノ者既ニ困難引拂後ナルキハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置キ是亦文本同様開港場ノ府縣長官へ可相廻事

一 難船ノ船具又ハ沙漏ノ荷物或ハ船洋等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當ノ價ヲ以テ買求メ候儀不苦尤モ其段可相届事
一 難船ニテ永々滯留可相成様子ニ候ハ、府縣縣トモ其筋ヨリ警備ノモノ可差出事
一 乗組人無之西洋ノ難破船海岸へ漂着候ハ、其様子委細ニ可届事
一 總テ外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書ノ類ニ至ル迄和文ニテハ難用立候ニ付彼國ノ文字ニテ爲相認書キ判又ハ調印爲致置シヘシ和文コナハ後日ノ證ハ難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認メ右ハ調印イタシ可差出彼方ヨリ望ミ候トモ意味不相知西洋文へ調印ハ勿論名面認メ載候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其餘無之事ト可相心得事

一 右條目ニ有文伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場カ又ハ東京外務省へ差出候
(外交門) (難船救助ノ事) 二二九三

事ト可相心得ハ勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場ハ相届候上猶又外務省ハ可申立

○内地旅行免狀ノ式(明治八年十月八日内務省)

本月二日相違候外國人内地旅行願出候節相渡候免狀表書示令ノ文字ヲ心得ト相改候且省使
厯入外國人右同斷ノ節相渡候免狀別紙ノ通り改正候條此旨爲心得相違候事
(別紙)

第號

外國人旅行免狀

國籍

姓名

身分

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハ、、、ノ保證ヲ以テ前書掲載ノ場所ヘ旅行致度旨申立差許候條道筋無故障
相通可申事

明治 年 月 日

(裏面)

○内地旅行外國人心得

- 一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ
- 一 此免狀ノ日附ヨリ三十日ニ必ス出立スヘシ
- 一 本文旅行日限ヲ定ムルト雖モ途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ
豫テ郵便ヲ以テ其國公使ヲ經テ其事故ヲ外務省ヘ申立ヘシ
- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤モ長崎函館等ノ遠方ヨリ出立
シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其國公使ヲ經テ外務省ヘ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途ト雖モ巡查又
ハ關戸長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フキハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄
トナスモ之ヲ示サル外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一 此免狀ハ一人一己ノ用ヲ爲シ他人ヘ貸與フルヲ許サス

(外交門)

(内地旅行外國人心得)

- 一此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外國人ト雖モ各地方ニ於テ日本人民ノ賣買取引及ヒ諸約定ヲ爲スナサス
- 一此免狀ニヨツテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一遊獵ノ免許證札ヲ所持スル外國人ト雖モ内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ續行盡サ、ル殘リノ場所ヘ旅行セント欲スル外國人ハ假令許可セル場所ト雖モ一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ
- 一本文並ニ此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其保證シタル公使ヘ告訴スヘシ

計第十一款

○官民雇入ノ外國人從者旅行免狀ノ式(明治八年十二月七日)

官民雇入ノ外國人職務上ニ付各地方ヘ出張外國人ヲ從者ニ召運候節是迄主從一紙ノ免狀相渡來候處自今時宜ニ依リ別紙体裁ノ免狀從者ヘ相渡候儀モ可有之此旨爲心得相違候事

(別紙)

第幾何

何省府縣履

朱印

何國人

姓名召仕

何國人

右何省府縣何國人誰同省府縣事務ヲ以テ何所ヨリ何所ヘ出張ニ付同所ヘ從行ノ儀開屆候條筋無故隨相通可申事

備開屆候條筋無故隨相通可申事

前明治九年四月十日

外務省

朱印

何省府縣履

○乙第百五十九号(明治八年)

外國人ノ内身分等級有之者内地旅行ノ節ハ其都度相違來候處自今別紙ノ取扱ヲ要セサルモノハ一々不相違候條筋免狀ニ記載有之身分ヲ認認シ不都合無之様可取計旨管下其向々ヘ相違可申此旨相違候事

○居留地外住居ノ外國人ニシテ他人同居禁制(明治九年三月三十日)

外國人居留地外住居ノ儀是迄其雇入ニ限リ特別許可有之其同姓ノ親戚及外國人僱僕ハ(外交門) (官民雇入ノ外國人從者旅行免狀ノ式)

相出久止同居爲致差無之儀。候處其他ノ外國人ヲ一時ノ止宿ト非スレテ同居爲致候儀ハ不相成候條人共少内外國人共雇人候者ニ洋夫々地方可假寄事

第三十八号 (明治十二年)

旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行ノ節疾病其他不得止事故アルハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤モ同時ニ必ク其事由ヲ詳記シ戶長役場へ可届出若シ滞留數日ニ及フハ七日毎ニ爲届出候様可致事

神庶第百十三号 (明治八年七月十七日)

外國人内地々質物産等ノ學術研究或ハ病氣養生等無余儀事故ヲ以テ内地旅行致シ候節沿道宿驛放亭止宿之節家主免狀檢査不致者モ有之且外國人ノ内免狀檢査相拒ル候者モ有之哉ニ相聞候ハ付今般外務省ニ於テ通行免狀表面別紙離形ノ通り改正相成候條宿驛旅籠渡世ノモノ共ニ於テ兼テ相心得外國人宿泊ノ節ハ右免狀一見テ了シ免狀ノ番號并ニ國名姓名宿帳ニ記載シ置キ後日取調ノ節制置ノ申出無之様可致尤モ免狀改方等ニ外國人身柄ニ應ニ夫々相當取扱可致旨内務省ヨリ被相達候間得其意免狀檢査ノ際不都合無之様注意スヘキ事

丙第六十四号 (明治八年十一月十二日)

外國人遊歩規程内市街村落ニ於テ止宿ノ儀ニ付第百八十九號御達ノ趣モ有之候ニ付テハ外國人病氣養生ノ爲メ旅亭ハ長シ止宿ノ儀家主ヨリ都度々々届出ルルキハ其趣ニテ承リ置クヘ以テ若シ外國人止宿係名トシ地所家屋賃借込否商買取引ヲカカ又其其事ヲ企ル趣相聞候節ハ場所立拂ハセ可申事

神甲第五十一号 (明治十年五月)

外國人止宿セシメ候節家注付シテ長或ハ坂所へ可届出云云(明治八年五月)第三百三十九號ヲ以テ外國人遊歩規程内屆出候ハ相達置候條向今旅籠渡世ノ者ハ勿論右渡世ニアラスト雖モ僻村等シテ日暮不得止節止宿セシメテ者ハ都テ其所轄警察署又ハ分署へ可届出若シ病氣療養等シテ旅籠渡世ノ者長シ滞宿セシムルニ於テハ日數七日毎ニ全署へ可届出事
第二但旅籠渡世ニテスルマテ病氣療養等外國人ヲ數日滞宿シ置クニテ者ハ縣廳之許支可承受シ置ク后所轄警察署又ハ分署へ届出ヘク事

神甲第百廿二号 (明治十一年九月)

外國人遊歩規程内於テ外國人止宿セシメ且届出方ノ儀ニ付明治十八年五月本縣甲第五十號同年七月同甲第七十三號及ヒ本年九月同甲第十六號ヲ以テ布達致置キ候處自今旅籠渡世等事ニ非スル雖モ兼テ懸親ヲ外國人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他止宿法得テ其事故不

(外交門) (居留地外住居ノ外國人ニ關スル件)

リテ宿泊セシムルハ苦シカラズ其筋目ヲ違有之候條其都府届出方之備ハ従前ノ通可相心得事

○御通聲ノ節外國人取扱心得(明治八年四月廿三)

- 第一條 通行ノ外國人道幅狹隘ニシテ儀仗御差支ノ場所ニ於テハ回避候様可申論尤モ御差支ニ不相成場所ハ歩行以テ差構上及下ニ取直シテ
- 第二條 車馬ニテ疾驅スルハ素直ノ儀仗御差支ニ不相成場所ニ於テハ道路幅員ニ應ジ儀仗ノ御差支ニ不相成様讓避通行セシムルニテ
- 第三條 直路狹隘ニシテ儀仗御差支ニ不相成場所ニ於テハ御通聲ノ儀申論シ回避セシメントスルモ彼背セサルハ程カニ引留御通聲儀仗ヲ放遣スルニテ
- 第四條 萬一馬車或ハ歩行等ニテ儀仗御差支ニ不相成場所ニ於テハ儀仗御差支ノ儀申論シ然ル上全ク御通聲ヲ辨ヘサル旨ノ儀ニ候ハ、宿所ヲ訊問シ名刺ヲ取り共儘放遣スヘシ
- 第五條 公使等ノ如キハ勿論彼等ニ於テハ其心得儀仗御差支ノ儀申論シ然ル上全ク御通聲ヲ辨ヘサル旨ノ儀ニ候ハ、宿所ヲ訊問シ名刺ヲ取り共儘放遣スヘシ

(太)第四十号(明治十一年九月九日)

明治八年十一月第百八十九號ヲ以テ外國人遊歩規程止符ニ備付相違候處自今旅籠渡世ノ者等ヲテスル雖モ兼テ懸親ノ外國人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他止符ニ付テ事起リテ宿泊セザル者若シカラス尤モ兵長又ハ坂所へ届クルハ前達ノ通可相心得事

○外國人銃獵免狀取扱條例(明治十一年十月十五日)

- 第一條 銃獵免狀ハ別紙離形ノ通可相制凡積ヲ以テ當省勸業局ヨリ相渡スヘシ
- 第二條 免狀下渡ノ節外國人キレテ別紙離形ノ通條約書ニ記名調印セシメ各地方長官東京府モ警視本署長官モ同ク記名調印シテ之ヲ該廳ニ留置キ免狀渡方取計フヘシ
- 第三條 出獵スルルハ必ス此免狀ヲ携帯スヘシ若シ銃獵シ得ヘキ場所或ハ其近傍ニ於テ其節ノ日本官吏ノ求メアルルハ速ニ免狀ヲ示シ點檢ヲ受クヘシ
- 第四條 免狀渡濟ノ上ハ總計表ヲ製シ翌年七月限り當省勸業局へ届出スヘシ
- 第五條 免狀中受ス銃獵セシ者有之節ハ該獵者ヲ取押へ成丈ケ證據取置キ其始末詳細領事へ訴出スヘシ
- 第六條 銃獵免狀ヲ領受セシ者ハ條約規程内ハ自他管内ヲ問ハス總テ免許シ効アルモノトス
- 第七條 免狀附與スル節ハ免狀料トシテ金十圓ヲ收入スヘシ

(外交門) (外國人銃獵免狀取扱條例)

但レ廢失等ニヨリ免狀再渡手迄ノ手續料トシテ金二十五錢ヲ收入スヘシ
 (免狀彫形)

表
 第 號

日本帝國鳥獸免狀ノ證
 國名 日本帝國
 姓名 本官官人 永田 三郎
 年齡 卅六
 住所 東京府本郷區本郷
 此免狀ハ舊免狀即明治十一年十月十五日(千八百七十八年十月十五日)ヨリ明治十二年四月十五日(千八百七十九年四月十五日)迄免狀發給ノ効アリ且シ金拾圓ヲ受取リ附與スル
 第一條 日没後日出前ハ免狀スルヲ許サズ且遊興ノ爲メニ食料ニ供セサル
 第二條 常ニ左ノ場所ニ於テ免狀スルヲ許サズ即チ都府市街ハ勿論衆人群集及ビ
 銃九ノ連スルヲ恐レテ人衆ニ向ヒタル距離ハ場所條約外及ビ禁獵制札建
 設ノ場所(附圖ニ示ス)

但シ制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シテ圖ノ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲シ置ク
 作務植付アリ及ビ社寺ノ境内其他繩張或チ假圍等ノ場所ニ於テハ免狀スル
 第三條 獵獲スルハ必シ此免狀ヲ携帶シ若シ日本官吏ノ求メアルキハ速ニ免狀
 ヲ示シテ點檢ヲ受ケル
 此免狀ハ他人ヲシテ使用シ得ズ且シ日本官吏ノ求メアルキハ速ニ免狀
 第四條 前條ノ雜項ニ違背スルハ洋銀卅圓ヲ拂フヘシ然レ上ハ此免狀ハ無用ノ
 廢物トナルヘシ
 第五條 此免狀ハ明治十二年四月十五日(千八百七十九年四月十五日)後日數廿日以内ニ最
 初受取リテ官廳ニ返納スルコトヲ要ス
 佛 文
 會場英 文
 第一條 日没後日出前ハ免狀スルヲ許サズ且遊興ノ爲メニ食料ニ供セサル
 第二條 常ニ左ノ場所ニ於テ免狀スルヲ許サズ即チ都府市街ハ勿論衆人群集及ビ
 銃九ノ連スルヲ恐レテ人衆ニ向ヒタル距離ハ場所條約外及ビ禁獵制札建
 設ノ場所(附圖ニ示ス)

(外交門) (外國人銃獵免狀取扱條例)

表 定 約

某府縣長官（東京ニ於テハ警視本署長官）ヨリ何國人民或ハ臣民某ニ本日免許料トシテ金拾圓ヲ受取リ別紙免狀ヲ附與セシメ付右何某左ノ條々ヲ遵守スヘキ旨ヲ愛ニ約定ス

第一條 日役後日出前ハ銃獵スルヲ許サス且只遊興ノ爲メニ安リニ食用ニ供セサル禽獸ヲ銃殺スヘカラス

第二條 常ニ左ノ場所ニ於テハ銃獵スヘカラス即チ

都府市街ハ勿論衆人群集及ヒ銃丸ヲ遠クニキ恐ソアル人家ニ向ヒタル距離ノ場
所條約期程外及ヒ禁獵制札建設ノ場所

但シ制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタルヲ圖メ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置ク

第三條 獵物捕付アル及ヒ社寺ノ境内其他繩張或ハ假圍シタル場所ハ何處ニ在リモ
第三條 獵物出獵スルハ必ス此免狀ヲ携帶シ若レ日本官吏ノ求メアルハ速ニ免狀
ヲ示シ點檢ヲ受クヘシ

第四條 此免狀ヲ他人テレテ使用セザルニシテ且日本官吏ノ求メアルハ速ニ免狀
第四條 前書ノ條款ニ違背スルハ洋銀十弗ヲ拂ハス然ル上ハ此免狀ハ無
用ノ廢物トナルヘシ

第五條 此免狀ハ明治十二年四月十五日（一千八百七十九年四月十五日）後日數廿日以内ニ最

面

初受取タル官廳ニ返納スルニシテ
明治十二年四月十五日
何縣長官記名糊印
何人ノ手記

支那人免許證及定約書共本文同様ナリ只裏面ニ支那文ヲ記載シアルノミ依テ錄セス

英 文	佛 文
-----	-----

●兵庫縣ヨリ外國人及ヒ清國人ハ銃獵免狀付與ノ儀ニ付内務省ヘ伺（明治十一年六月）

第一條 外國人及ヒ清國人ハ銃獵免狀ヲ付與シタル後水火盜難ニ罹ルカ或ハ毀損遺失
第二條 前條果シテ免狀料ヲ徵收スル者ナレハ若シ後日ニ至リテ盜難遺失等ニ係ル免
狀料ハ返付スヘキヤ或ハ其發願シタル免狀ヲ返納セシメ免
狀料ハ返付スヘキヤ或ハ其發願シタル免狀ヲ返納セシメ免
第三條 外國人銃獵免狀中受クル後十五日以内ニ廢棄シテ免狀ヲ返納スル者ハ税金ヲ
返付シ更ニ手数料ヲ徵收スヘキ成規ト雖モ外國人及ヒ清國人銃獵免狀取扱條例ニ於
テハ其明定無之ヲ以テ一旦免狀ヲ付與シタル上ハ假令十五日以内ニ廢棄スルトモ免

（外交門）

（外國人銃獵免狀取扱條例）

○指令(明治十一年七月)

第一條 再度ノ箇ハ免狀料更ニ收入候儀ト可相心得事
第二條 盜難遺失ノ免狀料額減額ハ該免狀料取附免狀料返納ニ及ハサル事
第三條 免狀料下付後十五日以内ニ廢業申出候共免狀料返付ニ及ハサル事

(神)明治十五年六月第三十八號ヲ以テ廿二條以下廿八條迄追加アリタリ(廿一條廿二條取扱方追加ニ係ルヲ以テ之ヲ恩)

○外國人ニ係ル遺失物取扱心得

第廿三條 外國人遺失物ヲ拾得シ及ヒ埋藏物ヲ掘得テ届出タルハ遺失物取扱規則第二條ニ依リ處分スヘシ

第廿四條 本邦人ノ拾得シタル物品ニシテ外國人ヨリ遺失シタル旨申出タルハ詳細聞札ニ相違ナキモノト認ムルハ直ニ物品ヲ相渡シ受領證ヲ徴シ且遺失物取扱規則第四條ヲ指示シ得者ニ通知スルモノトス

但滿一ケ年後外國人ヨリ遺失セシ旨申出ルモ受理セサルモノトス

第廿五條 得者遺失者共外國人ナルハ又前二條ニ同シ

第廿六條 外國人拾得セシ物品領收後一年內物主ナシレテ得者ニ給付スルハ其國領事ニ

送交付シテ該物品送書類ト共ニ警察本署ニ送付スルハ其旨通知シ且該物品ヲ渡シ受領書ヲ徴シ但外國人ヨリ物品拾得ノ期ヲ知照引渡方申出タルハ直ニ物品ヲ渡シ受領書ヲ徴ス

第廿七條 外國人物品拾得ノ届書ヲ差出タルハ官吏ノ聞取りタル筆記ヲ以テ届書ト見做ス迄妨ケテシテス

第廿八條 此規則第三條第四條第五條第十二條第十七條第十九條第廿條ヲ除ク外各條ハ外國人ニ係ル遺失物取扱心得ニ適用ス

○第廿七條(明治十一年七月)

外國人傭入候節ハ左ノ通り可相心得此旨布告候事

一 各官廳ニ於テ外國人傭入候ハ其國所姓名業務給料住所期限及ヒ繼續解雇共其時々外務省ニ通知ス

一 人民ニ於テ外國人ヲ雇入レント欲スルモノハ其管轄廳ヲ經由シテ前項ノ件々外務省ニ届出ス

一 私雇外國人ヲ其業務等ニ都合ニシテ居留地外ニ居住爲致度者ハ地方官添書ヲ以テ外務省ニ届出ス

本心伺出共許可受テシテ其旨通知ス

(丙)乙第四十一號 (明治十六年十月十五日)

本年八月太政官第三十二號ヲ以テ外國人雇入及解雇方等ノ儀達相成候ニ付テハ雇入雇繼又ハ其給料等ヲ増加セシトスル者ハ其金額事由ヲ詳記シ且解雇又ハ給料ヲ減省スル者ハ其額度届出ツヘシ

(司)丙第壹號 (明治十六年三月十二日)

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ雇ハレタル内國人ヲ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百廿八號公達ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其唯諾ヲ經ルノ手續ハ明治十四年第五十三號公達ノ旨モ有之ニ付大審院並ニ裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省へ申出指令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省へ申出右唯諾ヲ經ル手續ヲ了シ令狀ヲ執行セシムヘキハ勿論ニシテ其為念此旨相達候事

○内國人ヲ救助ノ外國人賞與手續 (明治十四年六月廿二日)

御國人民不慮ノ困難に遭ヒ外國人ノ救助ヲ受テ候節謝儀等ノ儀各國公使或ハ其本國政府ヲ經由シ兩國交際ノ要務ニ關スル事柄ハ内務省ニ於テ取扱又官民雇或ハ居留地ノ外國人ヨリ

自己ノ恩恵ヲ與ヘ謝儀賞與ノ儀ハ當省ニ於テ取扱候條有區別ニ依リ其郡度事由ヲ具シ主管官省へ可申出此旨相達候事

○外國船乘込規則 (明治九年三月十八日)

- 第一條 外國船ニ乘込旅行セシムル者ハ出船當日或ハ二日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄離ク旨ヲ具シテ其屆書ヲ共出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受テ入ル
- 第二條 乘船證書ハ一人一枚ナルベシ
- 第三條 乘船證書ヲ受取ルニ一枚ヲ付手数料トシテ金十錢ヲ納ム可シ
- 第四條 乘船證書ハ每人親ヲ出願シテ受取ルル代人ヲ以テスルヲ許サズ
- 第五條 乘船證書ハ着港上陸ノ上其地ノ警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸候節ハ其地ノ警察官吏ニ其證書ヲ檢閲テ受クヘシ
- 第六條 乘船證書ハ一度出船ニ用ユルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スルカ又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乗ルカ又ハ同船タリモ他日航海ノ便ニ乘込ムルハ最初受取タル證書ヲ共出船スル地ノ廳ニ納メ更ニ證書ヲ受取ルルベシ
- 第七條 乘船證書ヲ所持セズ以テ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

(外交門) (外國船乘込規則)

第八條 開港場アル地方廳ニ於テ外國船ニ乗込ントスル其屆書ヲ出ス者アルハ第一條
 第四條ノ手續ト相違ナキヲ檢閲シ別紙離形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手数料ヲ收領スヘ
 第九條 右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ
 若干員ヲ臨檢セシメ國內人ノ乗船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セ
 サルカ又ハ其證書最前ノ出船ニ受取タル者ニ其儘再用シタルヲ視認メタルハ詳カニ其所
 由ヲ取亂レ證書所持セサル者ハ乗船證書ヲ受取ル手續ヲナサシム或ハ其乗込ヲ止ム證書
 ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ
 第十條 警察官吏乗船證書ヲ臨檢シ若港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之
 ヲ本人ヘ還付スヘシ

○西洋形船水先免狀規則(明治十一年十二月九日)

第一條 明治十二年一月二日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水
 先人ト爲リ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發
 行スル免狀ヲ交付スヘシ
 第二條 水先ノ事業ニ關係シタル事務ハ農商務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明
 瞭ナル者ヲ撰ビ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海陸即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付且現況ニ從テ其他ノ地方
 第一條東京灣即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子嶋及大嶋波浮港ヲ通過シテ安房國野嶋崎ニ
 第二條 和泉灘即チ紀伊國宮崎ヨリ後路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北淡
 路國北ノ部ニ於ケル東經自三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス
 第三條 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄
 第四條 長崎港即チ肥前國田村ヨリ同國伊王嶋ノ極北ヲ通過シ同國沖島及香燒島ヲ經テ
 同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス
 第五條 津輕海峽即チ陸奥國尻矢崎ヨリ波島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ東界ヲ畫シ陸奥國
 大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡嶋國白神崎ニ
 至ル一線ヲ以テ其西界ヲ畫シ
 第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スル免狀水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ
 從フヘシ
 第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ニ技能及性質殊ニ平素ノ狀行ニ係リ確實ナル履
 歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方廳官ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ
 時於テ差出直チ同驗官ニ差出スルニ當リ

(外交四) (西洋形水先免狀規則)

第六條 水先人タル者ハ年齢二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若シハ一等運轉手ニ職ヲ執リシ者若シハ六ケ年間航海ニ従事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケシトスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ従事セルモノニ限ルヘシ

但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及碇泊場ハ勿論危險ノ場所及之ヲ避クルメノ重立タル記票或ハ方位又ハ物ノ滿干潮流燈光浮標標票ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト可驗官ヲ満足セシムルコトヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受ケ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト可驗官之ヲ認ムルハ其官ヲ農商務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ

但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セザルモノトス
第八條 免狀ノ書替ヘテ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ニ差出ス可シ

但シ之ヲ許可シ或ヒハ許可セザルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ
第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ送山

書替新免狀ヲ申請シヘシ
第十條 水先人ハ始メ其免狀ヲ願受クルハ金拾圓又其書替ヘ毎ニ金一圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲ爲ストキハ定日ヨリ少クトモ十四日以前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免狀ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歴書ヲ以テ充分満足ノモノトスルハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲ爲スヘシ
第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國内何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲ爲サント申入又ハ其爲メ信號ヲ爲スルハ何時モテモ免許水先人ハ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ハ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラザル免狀ヲ用ユル者ハ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス
但シ表中記載セザルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入又ハ其信號ヲ爲スルハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ
第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル如ク之ヲ製

(外交門) (西洋形船水先免狀規則)

シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ検査ノ上其免狀ヲ與フヘシ

但シ此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書換ヲ願出ツヘシ

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル区域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲メニハ港灣稅噸稅燈臺稅ノ諸稅等ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字并ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乘込アルキハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ懸揚スヘシ

但シ水先旗ハ明治十一年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スルキハ他船ニ用ユル燈火ヲ掲ケス只橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

但シ水先船其營業場ニ於テ水路嚮導從事セサルキハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表スルキハ水先ヲ要求スル信號ト認ムヘシ

第一 前橋ニ於テ其船ヲ船首ヤツクシ又ハ國旗ヲ掲揚スル事

第二 萬國普通ノ水先信號ノIT符字ヲ揭示スル事

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スルトキハ水先キヲ要求スルノ信號ト認ム可シ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル事

第二 須臾ノ間歇ヲモテテ凡一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル事

第二十一條 各免許水先人ハ其免許狀ハ勿論此規則ノ間チ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋

ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スルキハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ムキハ農商

務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スルキハ農商

務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ若シハ亂辭又ハ不行跡

アルカ或ハ故ナシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スルキハ

同省ヨリ官吏ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上

クヘシ

雜 門

(雜門) (公文式)

◎公文ニ關スル部

○公文式(十九年二月二十六日布告勅令第一號)

第一 法律命令

- 第一條 法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス
- 法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル
- 第二條 法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ
- 第三條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ニ副署シ年月日ヲ記入ス其各省主任ノ事務ニ屬スルモノハ内閣總理大臣及主任大臣之ニ副署ス
- 第四條 内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス
- 第六條 閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス
- 第七條 省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス
- 第八條 各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム
- 第九條 内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其監督ニ屬スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六

條第七條ノ例ニ依ル

第二 布告

- 第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル
- 第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス
- 第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス
- 島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス
- 第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラズ
- 第三 印璽
- 第十四條 國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス
- 國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス
- 第十五條 法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス
- 第十六條 國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス
- 四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

(雜門) (公文式)

第十七條 勅任官ノ任命ハ其辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

○官報ヲ發行ス(十六年五月十日第二十二號官省院廳府縣へ達)

今般太政官ニ於テ官報ヲ發行候ニ付左ノ條件相違候但シ發行ノ期日ハ遲テ可相違事
第一條 太政官中ニ(文書局)ヲ置キ官報編輯ノ事ヲ管掌セシム(十八年十二月第七十六號更ニ官報局ヲ置ク)

第二條 官報ハ別紙ニ記シタル事項ヲ掲載スヘキニ付各官廳ニ於テ主任ヲ定メ官報ニ掲載スヘキ書類ヲ取纏メ(文書局)ニ當テ送付スヘシ(同上)

第三條 各般ノ事項一時ニ掲載スルコト能ハサルトキハ其緩急ヲ量リ順次ニ掲載シ其大部ニ渉ル者ハ數日ニ分載スル等都テ(文書局長)ノ意見ニ任ス(同上送付以テ官報局ヲ置ク)

第四條 官報ハ別記定價ヲ以テ官報局ニ於テ發賣セシムルニ付直チニ同局ニ就テ購求スヘシ(十九年六月閣令第十七號ヲ以テ閣選局ヲ官報局ト改ム)

但官報購讀義務者ハ其代價ヲ本官廳ニ前納シ本官廳ハ之ヲ官報局ニ送付スヘシ(十八年五月十九號送付以テ但書ヲ追加シ十九年六月閣令第十七號ヲ以テ閣選局ヲ官報局ト改ム)

第五條 各官廳ノ廣告ハ官報ヲ以テスヘシ但東京ヲ除キ其他ノ地方ハ本條ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第六條 官廳ノ廣告其他官報ヲ以テスルノ外同時他ノ新聞紙ニ掲載スルハ各官廳ノ便宜ニ任ス 但シ其官報ヲ以テスル者ハ廣告料ヲ要セス

第七條 左ニ掲グルモノハ官報ヲ購讀スヘキ義務ヲ有スルモノトス 但シ各官廳ハ其定額ヲ以テ購求スヘシ

第一 省院廳府縣裁判所警察署郡區役所(十八年十二月八日號送付以テ郡區役所ノ四字ヲ追加ス)

參謀本部監軍本部近衛局鎮守府憲兵本部及屯所 官立學校

第二 上長官以上武官奏任以上ノ文官(同上送付以テ文官ノ下(及)即區長ノ四字ヲ刪ル)

一 詔勅 二 賞勳 三 叙任 四 官令 布告 布達 公示

五 達 官省院廳及東京府ノ告示 六 告示 七 官廳廣告 八 雜件 行幸行啓觀謁 參事院

九 外報 公使領事報告 外國新聞抄譯 十 說明正誤 十一 學藝教育ニ關スル事項

十二 農工商業及山林ニ關スル事項 十三 統計報告

(雜門) (公文式) (布告布達施行期限) 一三一九

十四 氣象報告

十五 瀛船出入

十六 廣告 官報定價

一部定價(配達郵) 金三錢

但一ヶ月分定價金七十五錢(十八年十二月内開第七十) (七號ヲ以テ但替ヲ追加ス)

◎布告布達施行期限(明治十六年五月二十)

布告布達ノ施行期限左ノ通制定ス

第一條 布告布達ハ各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス

但到達日數ハ布達ヲ以テ之定ム

天災時變ニ因リ到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ到達ノ日數ヲ定メス現ニ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第二條 布告布達ノ特ニ急施ヲ要シ即日ヨリ施行セシムル者及特ニ施行ノ日ヲ掲ケタル者

ハ總テ前條ノ例ニ在ラス

◎北海道ニ施行セサル法律規則ハ從前之通(明治十五年二月)

今般北海道ニ函館札幌根室ノ三縣ヲ被管候處法律規則ノ從前北海道ニ施行セサルモノハ當分ノ内仍ホ從前ノ通タルヘ

○布告布達發行(明治十四年十二月三日)

本年十一月九拾四號ヲ以テ諸省事務章程通則相違候ニ付テハ法律規則ハ布告ヲ以テ發行シ從前諸省限リ布達セル條規ノ類ハ自今太政官ヨリ布達ヲ以テ發行候條此旨相違候事

但太政官及ヒ諸省ヨリ一時公布スルニ止ルモノハ告示ヲ以テ發行シ諸省卿ヨリ府縣長官ニ達ノ儀ハ從前ノ通

○布告布達到達日數(明治十六年五月二十六日)

今般第拾七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

京都府	四日	大坂府	四日
神奈川縣	即日	兵庫縣	四日
長崎縣	十一日	新潟縣	五日
埼玉縣	即日	群馬縣	即日
千葉縣	即日	茨城縣	二日
栃木縣	二日	三重縣	四日
愛知縣	三日	静岡縣	二日
山梨縣	二日	滋賀縣	四日

(雜門) (布告布達到達日數)

岐阜縣	四日	長野縣	四日
宮城縣	五日	福島縣	四日
岩手縣	七日	青森縣	十日
山形縣	五日	秋田縣	八日
福井縣	八日	石川縣	七日
富山縣	六日	鳥取縣	七日
嶋根縣	八日	岡山縣	六日
廣島縣	七日	山口縣	八日
和歌山縣	六日	徳島縣	六日
愛媛縣	九日	高知縣	八日
福岡縣	九日	大分縣	十一日
佐賀縣	十一日	熊本縣	十一日
宮崎縣	十一日	鹿兒嶋縣	十二日

(但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開廳ノ日ヲ舊管廳ノ到達日數ニ依ル)

○内務卿ヨリ布告布達施行期限ノ儀ニ付大政官ヘ伺(明治十六年八月二十日)

布告布達施行期限ノ儀ニ付鳥根縣令並鹿兒嶋縣令ヨリ夫々別紙ノ通伺出(鹿兒嶋縣第二條ハ伺ノ通ト存候)何レモ絶海ノ島嶼ニシテ毎島地ニ郡區役所ノ設置無之內地又ハ他島郡役所ヨリ管轄候職ニア他ノ郡制ト同一視難致場所ト被存候尤モ本件同様ノ儀ニ付テハ

委ニ函館縣具狀ニ依リ經伺ノ上御許可相成候通例モ有之旁此段相伺候條至急御裁可有之度候也

○指令(明治十六年九月十八日) 伺之趣戸長役場到達ノ翌日ヨリ起算スル義ト可相心得事

◎建白ニ關スル部

○立法ニ關スル建白書等差出方(明治八年十一月二十五日) 第四百七十八號布告

諸建白書元老院へ可差出旨本年四月第六十八號ヲ以布告候處自今立法ニ關スルモノハ元老院へ其他ハ主任ノ廳へ可差出尤訴訟ニ涉ル事件ニ於テハ成規ノ手續ヲ示シ本人へ可下戻候條此旨布告候事

但東京ノ外各地方ノ人民ハ管轄廳へ差出該廳ヨリ本文同様主任ノ廳へ轉送可致候事

○公益ニ關スル上書ハ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱(明治十三年十二月九日) 第五百十三號布告

凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○建白書差出方心得(明治九年一月十五日) 第二號使府縣(東京府ヲ除ク)ヘ達

立法ニ關スル建白元老院へ差出方心得別紙ノ通候條此旨爲心得相達候事

(別紙)

(雜問) (立法公益等ニ關スル建白書等取扱方)

- 第一條 凡建白書ハ立法ニ關スル事項ニ非サレハ元老院ニ於テ受附セサルヲ以テ若シ誤テ他事ヲ言フ者ハ之ヲ廢棄ス可シ
- 第二條 凡建白書ハ其本貫身分姓名年齢職業住所ヲ誌シ其姓名ノ下ニ實印ヲ捺シ或ハ花押ヲ手書シ且表紙ニ其書ノ大意ヲ記シ必ス正副二本ヲ出ス可シ
- 第三條 凡建白書ハ普通ノ文ヲ用フ可シ外國ノ文ヲ用フ可カラス若シ外國ノ語ヲ用ヒサルヲ得サルトキハ其譯語ヲ附ス可シ
- 第四條 凡建白書ハ國ノ爲メ意見ヲ上陳スルモノニシテ固ヨリ乞願書ノ類ニ非サレハ其取捨ハ別ニ本人ニ告ケス

○官吏非職條例(明治十七年一月)

- 第一條 官吏(判任官以上並ニ出仕)奉職中各官廳ノ事務張弛其他疾病等ノ事故ニ依リ本屬長官ハ其僚屬ノ官吏ニ非職ヲ命スルヲ得
- 但勅任官ノ非職ハ上裁ニ依リ奏任官ハ大政官ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス
- 第二條 非職員其本官ヲ奉メ常ニ其職務ニ從事セス且其他總テ在職官吏ニ異ナルヲナシ
- 第三條 本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ非職員ヲシテ更ニ其職務ニ從事セシムルヲ得非職員復職スルハ勅任官ハ上裁ニ依リ奏任官ハ大政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス
- 第四條 非職ハ三年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

- 第五條 非職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一ヲ支給ス
 - 第六條 廢廳廢官ノ際御用滞在ヲ命スル者アルキハ本條例ニ準ス
 - 第七條 非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸會議ノ業務ニ從事シ其役員トナルヲ得ル
 - 本屬長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ太政大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス
 - 第八條 非職中第七條ノ業務ニ從事シ其給料ヲ受ルノ時間ハ第五條ノ俸給ヲ支給ス
- 非職官吏俸給下渡住居移轉及商業ニ關スルノ同令第一号(明治十九年二月二十日)
- 非職官吏ノ俸給下渡住居移轉及商業ニ關シ左ノ通之ヲ定ム
 - 第一條 凡ソ非職官吏ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ
 - 第二條 本屬長官ハ非職官吏ノ官等俸給氏名住所及非職ノ年月日等ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ
 - 第三條 非職官吏ハ本屬長官ニ届出テ本屬官廳所在ノ地ノ外ニ住居スルヲ得
 - 第四條 本屬長官前條ノ届出ヲ受ケタルキハ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣之ヲ地方官ニ通知シ該廳ヲ經由シテ俸給ノ下渡ヲ爲スヘシ
 - 第五條 非職官吏移轉地ニ到着シタルキハ其住所ヲ本屬長官及地方官ニ届出ヘシ嗣後更ニ住所ヲ移轉スルキモ亦同シ

(雜門)官吏非職條例

第六條 非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

○官吏懲戒例 (明治九年四月十四日 第三十四號布告)

第一條 自今私罪ヲ除クノ外ハ官吏職務上ノ過失ハ本屬長官ニ於テ懲戒權ヲ有スヘシ
第二條 懲戒ノ法三種トス

第一 罷責 第二 問俸 第三 免職

第三條 罷責ハ懲戒ノ輕キモノトシテ本屬長官ヨリ罷責書ヲ付ス

第四條 問俸ハ半月ヨリ少ナカラズ三月ヨリ多カラサル間問俸ヲ奪ヘ俸ヲ追スルノ法ハ毎月給ノ半ヲ領置シ期滿チテ大藏省ニ送付ス

第五條 懲戒ヲ以テ免職スル者ハ本屬長官ノ意見ニ從ヒ其責任ハ具狀奏請シテ之ヲ照シ位記ヲ返上セシム

但懲戒ニ由ルニアラスレテ免職スル者ハ長官官ヲ諭シ本人ヨリ辭職ノ願ヲ出サシメ然後免許スヘシ

第六條 諸省長官ハ所屬奏判任官ヲ懲戒ス

第七條 府縣奏任官ハ太政大臣之ヲ懲戒ス府縣並ニ警視廳判任官ハ其長官之ヲ懲戒ス

第八條 四等以下ノ判事ハ司法卿之ヲ懲戒ス府縣官判事ヲ兼ル者ノ其所屬判任官ニ於ルハ他ノ奏任以上府縣官ノ叶職ヲ得ル後之ヲ懲戒ス

第九條 府縣長官警視長官其所屬判任官ヲ懲戒スルニ共罷責ヲ專行スルコトヲ得ルヲ除クノ外其問俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ内務卿ニ届出ヘシ府縣官判事ヲ兼ル者其所屬ノ判任官ノ問俸免職ヲ行フハ便宜處分シテ速ニ司法卿ニ届出可シ
第十條 其有心故造私罪ニ入ル者ハ職務上ノ罪ト雖モ之ヲ司法卿ニ移シ本屬長官專ニ處分スルコトヲ得ス

○勅令第三十九號 (明治二十年七月二十九日)

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム

○官吏服務紀律

第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勸勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スベシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得

第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重ク貪汚ノ所爲アルベカラズ

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セズ謹慎懇切ナルコトヲ務ムベシ

第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトナ問ハズ官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦然リトス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬

(雜門) (官吏懲戒例)

長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ權ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受ルコトヲ得ス

官吏外國君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其費燕ヲ受クルコトヲ得ス

一 官廳ノ工事ヲ受負フ者

一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一 官廳ノ用品ヲ調達スル者

一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラザル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事情ヲ具シテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レシ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○文官試驗試補及見習規則(明治二十年七月廿三日)

第一 通則

(專門) (官定服務紀律)

第一條 本令ニ於テ文官ト稱スルハ奏任判任ノ文官ヲ總稱シ試補ト稱スルハ勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ヲ經當選シテ高等官ノ實務ヲ練習スル者ヲ云ヒ見習トハ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受ケル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ヲ經當選シテ判任官ノ事務ヲ練習スル者ヲ云フ

本令ニ於テ司法官ト稱スルハ裁判官及警察官ヲ總稱ス

第二條 第三條第四條ニ掲ケルルニテ除ク外本令ニ依リ定規ノ試験ヲ經當選シタル者コ

ニ任スルコトヲ得ス又實務練習ヲ終リタル者ニアラサレハ本官

第三條 三年以上分科大學ノ教授ニ任シタル者ハ高等試験及實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ

任シ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部大

學部ノ卒業生ハ高等試験ヲ要セス試補ニ任スルコトヲ得

司法官タルノ資格ヲ有スル者ニシテ他官ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タルノ資格

ヲ有シ三年以上代官シタル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第四條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受ケル私

立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス判任官見習ヲ命ス

第五條 試験ヲ分テ高等試験普通試験ノ二種トス

高等試験ハ試補ハ任州セラレシムル者ヲ望見者ノ爲メシ普通試験ハ判任官見習ニ任用セラ

ルニシテ其區々者ノ爲ニス

第六條 試験ハ筆記口述ノ二様トス筆記試験ハ附第シタル者ハ口述試験ヲ受ケルコトヲ得

第七條 試験ハ筆記口述ノ二様ニ就テ各科目ノ點數ヲ合算シタル一定ノ平均點數ヲ以テ合

格ヲ定メ時々官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ合格者中ヨリ選抜シテ當選者ヲ定

ム但シ科目ニ付一ニ點數ナキ者ハ合格者トスルコトヲ得ス

第八條 前條ニ選抜ニ當ラサル者ハ合格者ト雖モ再ビ文官ノ任用ヲ望ムルキハ更ニ本令ニ

依リ試験ヲ受ケルベシ

第九條 試験ニ必要ノ參考書類及紙墨ハ試験室ニ備ヘ置キ受験人之ヲ携帶スルコトヲ許サ

ズ

第十條 試験當選者ノ姓名ハ當選ノ時ニ公告ス

第十一條 第九條ニ記シタル若シ不正ノ方法ヲ以テ當選シ他日其事ノ發覺シタルトキハ當選

ノ効力ヲ失フ

第十二條 本令ニ依リ當選シタル者ハ當選ノ時ニ公告ス

第十三條 本令ニ依リ當選シタル者ハ當選ノ時ニ公告ス

(雜則) (文官試験規則)

第十二條 第九條ヲ犯シタル者及第十一條ノ處分ヲ受ケ又ハ不正ノ方法ヲ以テ當選セント

企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受ツルコトヲ得ス

第十三條 第十八條第二十三條第三十三條第三十六條ノ履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽

リタル者ハ試験ヲ受ルコトヲ得ス

第十四條 試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ後五ヶ年間ハ事務練習中ト雖モ本官ノ缺アルトキハ其練習ノ滿期ヲ

待スシテ本官ニ任スルコトアルヘシ

五ヶ年以上委任官ヲ勤メタル者ニシテ高等試験ヲ經當選シタル者ハ事務練習ヲ要セス直

ニ本官ニ任スルコトヲ得

第二、高等試験

第十六條 高等試験ハ各官廳ノ須要ニ從ヒ時々東京ニ於テ試験委員之ヲ行フ期日及場所ハ

官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條 高等試験ヲ受ツル者ハ左ノ如シ

一 丁年以上ノ男子

一 外國ニ於テ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修

學シタル旨ヲ證明スル證書ヲ有スル者

一 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ

卒業證書ヲ有スル者

一 高等中學校及東京商業學校ノ卒業證書ヲ有スル者

一 五ヶ年以上委任官ヲ勤メタル者

第十八條 試験願書ハ其時々官報ヲ以テ公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添ヘ之ヲ試験委員

長ニ差出スルコトヲ得

一 田圃者ノ履歷書

一 第十七條ニ掲ケル卒業證書及修學證書ノ寫

一 身分職歴年齢及兵役ニ關スル區戶長ノ證書

第十九條 高等試験ノ科目ハ試験ヲ行フ年毎ニ司法官又ハ行政官ノ別ニ依リ各官廳所掌ノ

事務ニ對シテ文官試験官長官之ヲ選定シ試験ノ期日三ヶ月前ニ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條 第三條第四條ノ資格ヲ具スル者ヲ除ク外教官技師官其他特別ノ學術技能ヲ要

スルモノハ別段ノ試験法ヲ定ムルマテ各學廳ノ需要ニ從ヒ試験ヲ經スシテ之ヲ任用スル

コトヲ得

第三、試験

第二十一條 試験ハ所屬大臣ノ指令スル所ニ就キ定限ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習ス

可シ

第二十二條 各官廳試験ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

(雜則) (文官試験規則)

第二十三條

法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法

學部文學部ノ卒業生ニシテ行政官又ハ司法官ノ試補クランコトヲ望ム者ハ左ノ書類ヲ取
添高等試験期日三十日前ニ其旨ヲ文官試験局長官ニ出願スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 學位又ハ卒業證書ノ寫

一 身分年齡

第二十四條 行政官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一ヶ年半ハ地方官廳一ヶ年半ハ中央官廳ニ

於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十五條 司法官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一ヶ年半ハ治安裁判所一ヶ年半ハ始審裁判

所ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十六條 試補ハ所屬大臣ノ指令スル所ニ就キ事務ヲ練習スルニ付テハ其主務長官ノ指

揮監督ヲ受ク

第二十七條 主務長官ハ事務練習ノ終ニ於テ試補練習ノ功程ヲ所屬大臣ニ具狀シ其意見ヲ

提出スヘシ

第二十八條 所屬大臣ハ練習期限中ト雖モ試補官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタルモノト認ム

ル時ハ試補ヲ免ス

第二十九條 在職ノ判任官ニシテ高等試験ヲ經テ選シタル者ハ事務練習ヲ要セス缺員アル

場合ニ於テハ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第三十條 試補ノ命ヲ承テ所屬大臣ノ指令スル所ニ就キ事務ヲ練習セサル者ハ試補ヲ免ス

第三十一條 中央官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ普通試験委員之ヲ行フ其

期日場所ハ時々其官廳ヨリ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 地方官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ需ニ應シ府縣ノ普通試験

委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々普通試験委員長ヨリ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公

告ス

第三十三條 試驗願書ハ本人自ラ之ヲ認メ其時々公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ普

通試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歷書

一 身分職業年齡及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十四條 普通試験ノ科目ハ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ普通試験委員之ヲ選定シ文官

試験局長官ノ認可ヲ經テ試験ノ期日一箇月前ニ官報又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘ

シ

第五 判任官見習

(雜則) (文官試験規則)